

第1学年 生活科学学習指導案

1 単元名「あきとなかよし」

2 単元の目標

身近な自然や物を使って遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びをつくり出そうとする。

3 単元の構想

幼児期やこれまでの日常生活での経験をもとに自分が知っている秋の自然の様子や秋遊びを振り返って、秋の自然の特徴を予想したり、秋の自然を使った遊びをつくり出したりする活動をする。初めに校庭や柳津町内の公園などで秋を見付ける活動を行う。そこで見付けた「あき」について紹介し合いながら秋の季節感を学ぶ。単元の後半で、みんなで見付けた秋の自然物を使っておもちゃをつくって遊ぶ活動を行う。その際に、自分達だけで遊ぶのではなくこれまで学校のいろいろなことを教えてくれた2年生にお礼の気持ちを伝えるために、2年生を招待して行う『あきのおもちゃランド』を計画する。「2年生に楽しんでもらいたい」という願いをもち、試行錯誤しながらおもちゃをつくっていく。つくる過程で、自分たちでアドバイスをし合うだけでなく、これまでのシャボン玉遊びやフロア遊びでアドバイスをもらってきた6年生からも、アドバイスやヒントをもらい、いろいろな人と関わりながら遊びが充実していく。単元の終末には、これまでさまざまな場面で助けてもらう立場だった1年生が、『あきのおもちゃランド』をきっかけに、だれかのために考えることの楽しさを実感しながら意欲的に活動していくようになる。

4 授業の見どころ

① 児童が問題や願いを見出す時の思考の流れに沿った教師の支援

おもちゃづくりの学習では、「2年生に楽しんでもらえるように」という願いを毎時間意識しながら活動を進めていく。前時までの学習では、自分のつくりたいおもちゃを自分のアイデアでつくり、よりよくなるように、6年生にアドバイスをもらっている。

願いを見出せるように、②仲間と自然に交流しながら活動できるように同じおもちゃでグループをつくったり、④1年生同士だけでなくいつも頼りにしている6年生からのアドバイスをもらい、その豊富なアイデアの中から自分が目指す「楽しいおもちゃ」にするための方法を選んで様々な工夫ができるようにしたりして、「〇〇がしたいから□□でやってみる」という願いをもてるようにしたい。
(場の設定)

また、「どうするとできそうかな」「どうしてうまくいったの」など、願いをもつことや気付きの質を高められるような問い返しをすることでどの子も意欲的に活動できるようにしたい。(声かけ)

5 単元構想図

1年生「あきとなかよし」 【全17時間】

〈子どもの活動ストーリー〉

子どもたちは、これまで幼稚園・保育園・こども園で、松ぼっくりや落ち葉、どんぐりを集めた「秋の自然遊び」を経験している。しかし、保護者の手助けを頼りて行う活動が多かった。本単元では自分で実行活動する過程において、年中や上級生の意見を取り入れながら活動を工夫していく。

初めは思いのままに作り、仲間やこれまでに経験（学習）をしたことのある6年生からのアドバイスを取り入れることによって、さらに自分のおもちゃをパワーアップしていく。とんとん工夫をする過程を経て、「2年生に楽しんでもらえるように、という思いを達成するために実行活動しながら自分たちの秋遊びをつくり上げていく楽しさを味わいながら活動し、「秋のために」準備することの楽しさを実感する。

【単元に備わる見方】身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容
 中・生活と環境
 中・身近な自然との関わり
 中・遊びの工夫

資質・能力

【知識及び技能の基礎】

・秋の自然と関わる活動を通して、秋の自然のようすや夏から秋への変化がわかったり、秋の自然物を利用した遊びの面白さに気付いたりしている。

【思考力、判断力、表現力等の基礎】

・秋の自然と関わる活動を通して、秋の特徴やその他の季節との違いを見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくりしている。

【学びに向かう力、人間性等】

・秋の自然と関わる活動を通して、季節の変化に関心を持ち、それらを取り入れて自分の生活を楽しくしようとしたり、みんなと楽しみながら遊びをつくり出そうとしたりしている。

【取り扱う内容の重点項目】

身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容

自然や物を使った遊び（6）生活や出来事への伝え合い（8）自分の成長（9）

次	児童の願い	教師の支援
1	① 秋ってどんなようすだろう <u>春や夏とくらべて秋はどのように変わってきたのかな。</u> 運動場のさくらの木の葉っぱがなくなっているよ。 家の近くの公園に落ち葉がいっぱいだったよ。 どんぐりや松ぼっくりを見つけたことがあるよ。 緑道公園はあんまり変わらないよ。でも、コオロギを見付けたよ。 柳津の他の公園はどうなっているのか見に行ってみたいな。 ② 『秋みつけ探検』の計画を立てよう <u>いろいろな公園に行って、秋見つけをしてみたいな。</u> みんなで公園に行って、春や夏と変わったのか見て遊びたいな。 どここの公園に行こうかな。佐波保育園の近くの公園に行ってみたいな。 公園に行く途中にある神社の木とかも見ていくと面白そうだよ。 公園に行くまでは、交通安全に気を付けて歩かないといけなよね。 公園に着くまでにも、秋が見付かるかもしれないね。 木の葉とか、葉っぱとかたくさん見付けたいな。 虫をたくさん見付けたいな。秋って虫はいるのかなあ。 ③④⑤秋みつけ探検隊Ⅰ（全員で探検） 柳津の公園で、秋見つけをしてみたいな。春・夏とどこがちがうかな。 ○○さんが言っていたみたいに、落ち葉がけっこうあるね。 緑が少なくなった気がするな。茶色いバリバリした葉っぱがあるよ。 紫色のブドウみたいな実を見付けたよ。葉っぱを踏むと音がするよ。 もっといろいろな公園を見に行くと、もっといろいろな見付けられそうだな。 <u>少し遠い佐波公園で、もっとたくさん秋見つけをしてみたいな。</u> どんぐりがいっぱいあるよ。松ぼっくりもあったよ。 こんな大きな葉っぱが落ちていたよ。赤色とか黄色の葉っぱがあるよ。 柳津の公園にはなかった実を見付けたよ。何ていう名前かなあ。	・「秋ってどんな季節かな」「春と夏に比べて秋はどんなところが同じでどんなところがちがうかな」（声かけ） ・春や夏の校庭の板子が分かる写真を準備しておく。（場の設定） ・ロイロノートの写真にチェックをしながら考え、交流できるようにする。（場の設定・意図的なペア交流） <u>願いが生み出されるパターン</u> ②比較から、疑問やあこがれを生む。 ・「どんな公園に行ったことがあるかな」「秋の公園で遊んだことを思い出してみよう」（声かけ） ・柳津町にある公園を地図と写真で紹介・確認し、みんなで行く公園を決めるようにする。（場の設定） ・「公園に行ったら、どんなところに注目すると秋を見付けることができるかな」（声かけ） ・秋みつけ探検で気を付けることや確かめるとよいことなどを考える。（グループ交流） <u>願いが生み出されるパターン</u> ③新たな物や人との出会いから興味や疑問をもつ。 ・「今日はどんな秋が見付かるかな。見るだけじゃなくて触ったり、匂いを嗅いだりしてみるのもおすすめだよ」（声かけ） ・「どんな所に注目すると、いろいろな秋を見付けられるかな。」（声かけ） ・自分が見付けた秋を仲間に伝える時間を設け、全員が秋見つけをできるようにする。（場の設定） ・他の地域の公園でも同じ感じなのかなあ。（校外学習へつなげる声かけ） <u>願いが生み出されるパターン</u> ②比較から、疑問やあこがれを生む。 ③新たな物や人との出会いから興味や疑問をもつ。
2	⑥見つけた『あき』をしようかしよう <u>自分の見つけた『あき』をみんなに教えたいな。みんなは何を見つけたのかな。</u> ぼうしのついたどんぐりをたくさん見付けたよ。 いろんな形や大きさの葉っぱを見付けたよ。色も茶色・赤・黄とかいろいろあったよ。この葉っぱは、巨人の顔に見えるよ。 松ぼっくりをよく見ると、開いているのときゅう一つとしているのとおもふよ。 コオロギを見付けたよ。飼ってみたかったけど迷がしたよ。 ⑦『あきあそび』の計画を立てよう <u>せっかくだから、みんなが見つけた『あきのもの』を使って遊びたいな。</u> 今までいろいろ招待してくれた2年生さんを、今度は私たちが招待したいな。 どんぐりでよく回るこまをつくりたいな。 松ぼっくり釣りをしてみたいな。 いろいろな葉っぱで絵のような作品をつくりたいな。 どんぐりとか松ぼっくりで迷路がつくれそうだな。 せっかく作るなら公園遊びや生きものランドをやってくれた2年生さんを招待するのはどうかなあ。	・自分の見つけた秋を写真に撮って、ロイロノートで紹介しながら交流する。（場の設定） ・「自分の一番のお気に入りを紹介しようね」（声かけ） ・話し方の語型を提示したり、聞き方の指導をしたりして、スムーズな交流ができるようにする。（声かけ・場の設定） <u>願いが生み出されるパターン</u> ③新たな物や人との出会いから興味や疑問をもつ。 ・教師が作ったどんぐりや松ぼっくり、葉っぱを使ったおもちゃを見せて、秋遊びへの興味・関心をもたせる。（声かけ・場の設定） ・秋遊びを紹介する本を設置しておく。（場の設定） ・みんなが見つけた秋の物でどんなことができるかな。（声かけ） ・「秋のおもちゃを作った後は、どうしたいかな」（声かけ） <u>願いが生み出されるパターン</u> ①実施を把握した教師による声かけから、異なる願いを生む。 ③憧れや期待から、「こうなりたい」という願いを生む。

⑩『あきのおもちゃ研究所Ⅰ』秋の材料を使っておもちゃをつくろう <u>自分の集めた木の葉や葉っぱで楽しいおもちゃを作りたいな。みんなに自慢できるようなおもちゃを作ろう。</u> どんぐりでコマをつくりたいから、キリを使うよ。 けん玉を作るから、家からいろいろな長さのひもを持ってきたよ。 上手くくっつかないなあ。どうするといいかボランティアさんに聞いてみよう。 楽しい迷路になりそうだね。もう少し、ここを狭くすると難しくなって楽しいんじゃないかなあ。 結核面白いゲームができたと思うよ。やってみて。 2年生さんでも、楽しめるかなあ。すぐ壊れちゃいそうなんだけど、どうするといかないなあ。	・道具の使い方をきちんと全員に指導し、安全に気を付けて作業ができるようにする。(声かけ・場の設定) ・「どんなおもちゃにしたいの。」「どんなことに困っているの」(声かけ) ・途中で作った物で遊び合う時間を設けて、願いをもって活動できるようにする。(場の設定) ・学習ボランティアをお願いし安全に活動できるようにする。(場の設定) ・おもちゃの姿容がわかるように、ロイロノートに写真等で残し、自分の活動の足跡を振り返ることができるようにする。 願いが生み出されるパターン ①実態を把握した教師による声かけから、更なる願いを生む。 ②比較から、疑問やあこがれを生む。
⑪6年生からアドバイスをもらおう(6年生を招待) <u>2年生さんが楽しめるようなおもちゃかどうかを6年生さんに確かめてもらって、どうするといいか教えてもらいたいな。</u> シャボン玉の時に、6年生さんにコツを教えてもらったら上手くできたから、今回もアドバイスしてほしいな。楽しく遊べそうかなあ。 すぐ壊れちゃうから丈夫にしたいけど、どの材料を使うといいのかなあ。 ○○さんのようにしたくてもどうすればいいかわからなかったけど、直すといところがあったよ。 6年生さんが楽しそうに遊んでくれたし、褒めてくれて自信がついたよ。	・「自分がどんなおもちゃでどうやって遊ぶ予定なのかをはっきりさせようね。」「6年生さんにどうするといいかたくさんアドバイスをもらおうね」(声かけ) ・活動がスムーズに進むように、フロア遊びで何度も交流している6年生とグループを組むようにする。(場の設定) ・ロイロノートに、アドバイス内容をメモとして残すように6年生に協力してもらい、次回の活動のヒントになるようにする。(場の設定) 願いが生み出されるパターン ③憧れや期待から、「こうなりたい」という願いを生む。 ④新たな物や人との出会いから興味や関心をもつ。
⑫『あきのおもちゃ研究所Ⅱ』アドバイスを活かしてパワーアップさせよう(本時) <u>6年生さんのアドバイスを活かして、おもちゃをパワーアップさせるぞ。</u> 6年生さんが、段ボールをここに貼るといって教えてくれたから、今日は段ボールを使って強くしようと思っているよ。 どんぐりごまのつまようじの長さを変えて、いろいろ用意すると面白くなるよと教えてもらったから、今日はもっといろいろつくろうと思うよ。 アドバイスしてもらったようにつくったらうまくできたよ。6年生さんはやっぱりすごい。	・活動の初めに、最初に作ったおもちゃと6年生からのアドバイス(ロイロノート)を見せながら、今日の時間に自分はどうしたいのか初めにグループ交流をして見直し・願いをもたせる。(場の設定) ・「どこをどんな風にしたいのかな」「どんなことに困っているの」「何があるといいの」(声かけ) 願いが生み出されるパターン ⑤見通しがはっきりしていることで、願いが明確になる。
⑬『あきのおもちゃ研究所Ⅲ』パワーアップしたおもちゃをたしかめよう <u>自分のおもちゃはちゃんとパワーアップしているか、みんなとたしかめよう。</u> わたしは、松ぼっくり釣りをつくったよ。よく釣れるようにクリップとか磁石を大きくしたけど、どうかなあ。 松ぼっくりけん玉は、入れるところの大きさがいろいろあって面白かったよ。 的当ては、いろいろな大きさの的があって面白くなったね。	・同じ物をつかっておもちゃを作っているグループ内で、実際に遊び、お互いにアドバイスをし合って個々の満足度を高める。(場の設定) ・「みんながどんな工夫をしたのか聞いてみよう」「もう、これでよし!と思えるおもちゃになったかな」(声かけ) 願いが生み出されるパターン ①実態を把握した教師による声かけから、更なる願いを生む。 ⑤見通しがはっきりしていることで、願いが明確になる。
3 ⑭『あきのおもちゃ研究所Ⅳ』2年生を招待する準備をしよう <u>2年生さんが喜ぶように、会場の飾りつけなどをしてもっと盛り上げたいな。</u> お祭りみたいな飾りつけをすると、楽しくなると思うよ。 看板を作って、何のお店がすぐに分かるようにしたいな。 看板だけじゃなくて、遊び方とかの説明も書くといいんじゃないかな。	・「2年生さんに、どんなおもちゃランドで遊んでもらいたいかな」「おもちゃだけ用意するだけでいいかな」「どんなことができそう」(声かけ) 願いが生み出されるパターン ①実態を把握した教師による声かけから、更なる願いを生む。 ③憧れや期待から、「こうなりたい」という願いを生む。
⑮『あきのおもちゃランド開園』2年生を楽しませよう <u>おもちゃランドが成功しますように。2年生さんを楽しませるぞ。</u> たくさんの人に遊んでもらいたいな。楽しいって言ってもらえるといいな。 またやりたいて言ってもらえてうれしかったよ。 作る時に何回も壊れてしまって大変だったけど、本番はたくさんの人に遊んでもらえてよかった。	・「2年生さんにどんな感想を言ってもらいたいかな」「どんなおもちゃランドになりそうかな」(声かけ) ・2年生から感想を言ってもらう時間をつくり、活動の振り返りに活かせるようにする。(場の設定) ・おもちゃレスキューコーナー(直す材料)を用意しておく。(場の設定) 願いが生み出されるパターン ⑤見通しがはっきりしていることで、願いが明確になる。
⑯活動のふりかえりをしよう <u>『あきのおもちゃランド』でがんばったことをみんなと話したいな。</u> わたしは、どんぐりを使って迷路をつくったよ。はじめはどんぐりが上手く転がらなくて困っていたけど、6年生さんにアドバイスしてもらって道を少し広くしたら上手く転がるようになったよ。2年生さんがまたやりたいて言ってくれてうれしかったよ。	・ロイロノートに残してある自分の活動の足跡を見せながら、振り返りができるようにする。(場の設定) ・次の単元に学びをつなげるために、振り返りを発表する場で、いろいろな方からのアドバイスをもらうよさや、自分で誰かのために工夫することへの満足感などについて価値付ける。 願いが生み出されるパターン ①実態を把握した教師による声かけから、更なる願いを生む。 ③憧れや期待から、「こうなりたい」という願いを生む。

単元後の児童の願い

いろいろ考えた後飾り直したりして大変だったけど、2年生さんが遊んでくれてうれしかったな。

「もふんてチャレンジ大きくせん」へ

6 本時に関わって(12/17)

(1) 本時のねらい

6年生のアドバイスを思い描き、「2年生が楽しく遊べるおもちゃにするためには、何をどう工夫していくとよいのか」を考えながら、おもちゃをパワーアップさせようと進んで楽しみながら活動することができる。

【思考力、判断力、表現力等の基礎】

(2) 本時の展開

学 習 活 動	指導・援助				
○本時の願いとめあてを確かめ、活動の見通しをもつ。 【めあて】 6年生のアドバイスを使ってもっと たのしいスペシャルなおもちゃに なるように パワーアップさせよう。	・相談したり参考にしたりしながら活動が出来るように、同じ目的のおもちゃを作るグループ毎の作業コーナーにする。 ・材料コーナーを、教室の真ん中に配置し、どのコーナーからも使いやすい環境を整える。 ・6年生のアドバイスをグループ毎にロイロノートに残し、いつでもパワーアップのヒントとして参考にできるようにしておく。				
○6年生からもらったアドバイスの中から、自分がパワーアップさせるための方法を選び、本時のめあてをペアに伝える。 T: この前6年生さんに遊んでもらってから、みんなに教えてくれたことを確かめてみよう。					
<table border="0"><tr><td> 【的当て的入れ】 ・ドングリを的に当てるだけよりも、的の中に入ったりしても楽しいと思うよ。点数をつけるようにすると楽しくなるよ。 ↓ C: ・どングリにつける羽の長さを試してみよう。 ・的の大きさをもっと大きくしたり、小さくしたりして、小さい的の点数を高くしてみようかな。 ・的の数を増やして、当たるチャンスを増やしてみるのもいいかなあ。 </td><td> 【魚釣り】 ・紐が長いとなかなか魚が釣れないから面白くなるよ。竿の長さを変えて選べるようにしてもいいんじゃないかな。魚に点数がついていると楽しくなるよ。 ↓ ・釣り竿の長さをえられるようにいろいろな長さの竿をつくるよ。 ・釣りやすくなるように、オナモミの数を増やすよ。 ・毛糸を釣り糸にしてみようと思うよ。 </td><td> 【ドングリすくい】 ・「金魚すくい」みたいにたくさんすくえと楽しいし、ポイが破れるのもドキドキして面白くなるよ。 ↓ ・競争にしよう。 ・時間を決めてドングリの数をたくさんすくった方の勝ちというルールにしよう。 ・ポイを破れやすくすると楽しそうだから破れやすいポイを考えよう。 ・ポイの大きさを大きくしたり小さくしたりして選べるようにしてみよう。 </td><td> 【スライダー】 ・引っかからずにドングリが転がっていくと、みんなが夢中になるよ。 ↓ ・もっと高い位置から、どングリをスタートさせるようにするよ。 ・途中で、そうめん流しみたいに箸で取るバージョンにしようかな。 ・箸で取るならマツボックリを転がした方が大きくて取りやすくなるかなあ。 </td></tr></table>	【的当て的入れ】 ・ドングリを的に当てるだけよりも、的の中に入ったりしても楽しいと思うよ。点数をつけるようにすると楽しくなるよ。 ↓ C: ・どングリにつける羽の長さを試してみよう。 ・的の大きさをもっと大きくしたり、小さくしたりして、小さい的の点数を高くしてみようかな。 ・的の数を増やして、当たるチャンスを増やしてみるのもいいかなあ。	【魚釣り】 ・紐が長いとなかなか魚が釣れないから面白くなるよ。竿の長さを変えて選べるようにしてもいいんじゃないかな。魚に点数がついていると楽しくなるよ。 ↓ ・釣り竿の長さをえられるようにいろいろな長さの竿をつくるよ。 ・釣りやすくなるように、オナモミの数を増やすよ。 ・毛糸を釣り糸にしてみようと思うよ。	【ドングリすくい】 ・「金魚すくい」みたいにたくさんすくえと楽しいし、ポイが破れるのもドキドキして面白くなるよ。 ↓ ・競争にしよう。 ・時間を決めてドングリの数をたくさんすくった方の勝ちというルールにしよう。 ・ポイを破れやすくすると楽しそうだから破れやすいポイを考えよう。 ・ポイの大きさを大きくしたり小さくしたりして選べるようにしてみよう。	【スライダー】 ・引っかからずにドングリが転がっていくと、みんなが夢中になるよ。 ↓ ・もっと高い位置から、どングリをスタートさせるようにするよ。 ・途中で、そうめん流しみたいに箸で取るバージョンにしようかな。 ・箸で取るならマツボックリを転がした方が大きくて取りやすくなるかなあ。	願いが生み出されるパターン ①実態を把握した教師による声かけから、更なる願いを生む。 ・「6年生さんのアドバイスの中のどれをやってみようと思う?」や「6年生さんのアドバイスを聞いて、今日はどこをパワーアップさせたいの?」などと声をかけ、本時の願いをもつことができるようにする。 ②比較から、疑問や憧れを生む。 ・「〇〇さんのおもちゃと似ていると思うけど、試し遊ばせてみてどうだった?」と問うことで、必然的に比較する活動をつくりだす。 ・グループ内での活動を見届ける手段として、願いが叶った場合は赤白帽子を白に変えるように促し、個々の進捗状況を把握できるようにする。 ・活動時間をなるべくたくさん確保し、試行錯誤する過程を大切にする。
【的当て的入れ】 ・ドングリを的に当てるだけよりも、的の中に入ったりしても楽しいと思うよ。点数をつけるようにすると楽しくなるよ。 ↓ C: ・どングリにつける羽の長さを試してみよう。 ・的の大きさをもっと大きくしたり、小さくしたりして、小さい的の点数を高くしてみようかな。 ・的の数を増やして、当たるチャンスを増やしてみるのもいいかなあ。	【魚釣り】 ・紐が長いとなかなか魚が釣れないから面白くなるよ。竿の長さを変えて選べるようにしてもいいんじゃないかな。魚に点数がついていると楽しくなるよ。 ↓ ・釣り竿の長さをえられるようにいろいろな長さの竿をつくるよ。 ・釣りやすくなるように、オナモミの数を増やすよ。 ・毛糸を釣り糸にしてみようと思うよ。	【ドングリすくい】 ・「金魚すくい」みたいにたくさんすくえと楽しいし、ポイが破れるのもドキドキして面白くなるよ。 ↓ ・競争にしよう。 ・時間を決めてドングリの数をたくさんすくった方の勝ちというルールにしよう。 ・ポイを破れやすくすると楽しそうだから破れやすいポイを考えよう。 ・ポイの大きさを大きくしたり小さくしたりして選べるようにしてみよう。	【スライダー】 ・引っかからずにドングリが転がっていくと、みんなが夢中になるよ。 ↓ ・もっと高い位置から、どングリをスタートさせるようにするよ。 ・途中で、そうめん流しみたいに箸で取るバージョンにしようかな。 ・箸で取るならマツボックリを転がした方が大きくて取りやすくなるかなあ。		
○グループごとに分かれて、自分のおもちゃがパワーアップするように活動する。 T: 『つくる→試す→考える・振り返る→改良する』のサイクルを大事にしながらかパワーアップさせていこうね。 C: 最初やってみようと思っていたことが、あんまり上手くいかなかったから、いろんなやり方を試してるよ。〇〇の方法がけっこういいよ。じゃあ、ぼくもやってみよう。それはどうやってやったの? ○本時の活動を振り返る。(個人→グループ交流) C: 6年生さんのアドバイスの中から、長さを変えると面白くなるという方法を試すために、いろいろな長さを試して一番いいのが作れたからうれしかったです。 C: もうちょっと〇〇のところを工夫したいから、もっと時間がほしいな。	自分の願いに向かって活動し、仲間と話し合うことで「もっと楽しくするためには、何を工夫していくとよいのか」気付いたことを、自分の言葉で表現することができる。 (活動中の様子・発言) 【思考・判断・表現】 ・自分の成長を自覚できた姿を価値付け、全体に広める。				

第2学年 生活科学学習指導案

1 単元名 「 もっと 知りたい たんけんたい 」

2 単元の目標

地域のさまざまな場所を訪問したりその場所の魅力について話し合ったりする活動を通して、地域には生活したり働いたりしている人がいることや、それらの人々と自分たちの生活との関わりに気づき、地域の人々に親しみや愛着をもつとともに、人々と適切に接したり、安全に生活したりすることができるようにする。

3 単元の構想

春の町探検や夏休みに行った場所を思い出し、柳津の「まちのすてき」を探す探検を計画する。秋の探検では、その場所にある物や人に焦点をあて、自分が「すてき」だと思うものを探す。初めに児童がよく知っている場所（公民館、図書館、カラフルタウン、ブルーベリー農園など）の見学に全員で行き、自分が「すてき」と思ったものや人について仲間と交流する。全員で行った見学活動の知恵を使って、最後は、3つのコースに分かれて、自分が行きたい場所を選び、探検に出かける。そこで見つけた「すてき」は、学級の半分以上の児童が知らないことなので、自分が見つけた「とっておきのすてき」を仲間と交流し柳津の町や人に愛着をもつようにする。

4 授業の見どころ

① 児童が問題を見出す時の思考の流れに沿った教師の支援

どの児童にも「〇〇がすてきだと思ったのだね。」など（理解と共感）を示す声かけを行い、自信をもたせる。前時までにそれぞれのコースで見つけたすてきな人やすてきなものをロイロノートにまとめてあるので「どんな『まちのすてき』があるのかな」と問うことで、自分が見つけた『まちのすてき』をみんなに話したいという願いをもち、めあてを作っていく。（価値付け、方向付けの声かけ）

本時は、自分が見つけた「まちのすてき」を他の友達に伝える。交流するときに、教師が「〇〇さんの話を聞いてどう思った。」「〇〇さんの見つけた『まちのすてき』を先生にも紹介して。」などと声をかけることで、自分が知らない「まちのすてき」を発見できるようにする。「なにがすごかったと思った。」「どこがすてきだと思った。」と問い返すことで、気づきの質を高められるようにする。（指導・支援に関わる声かけ）

② 終末における児童の振り返りを活用して新たな問いや願いを見出すための視点の明確化

本時は、単元の出口であるが次単元の入り口でもある。本単元で柳津の『まちのすてき』をたくさん見つけたり、知ったりした児童は、この『まちのすてき』を、もっとたくさんの人に伝えたいなっているはずである。「すてき発見マップ」にどんどんすてきなものやすてきな人のことがたくさん記されていくようになる。「色々な所に行けて、柳津町が大好きになった。」「すてきな人がたくさんいる柳津町だ。」というような柳津町に愛着をもつことができた自己の成長や「もっと違うところにも探検に行って、柳津町のことを知りたい。」などの更なる興味をもてた自己の成長にも気付かせていきたい。

そうして次単元の「つたわる広がるわたしの生活」の活動へ接続させていきたい。

5 単元構想図

2年生「もっと知りたい たんけんたい」

【全14時間】

〈子どもの活動ストーリー〉

春の探検隊で探検の年には、いろいろな場所があることを知った子どもたちは、もっと自分たちの町のことで知りたいという思いをもつ。初めに、トイレ休憩して立ち寄った柳津公民館の見学をスタートにして、いろいろな場所を探検したいという思いを膨らませる。そして、自分たちが知っているお家に入りの場所や人を紹介することで、一人一人が、もっとその場所やそこにいる人、深く知り、愛着のわく場所や人へと変化していく。地域の人がと関わることの楽しさや、地域の町の色を愛した子どもたちは、やがて自分の住むこの町に愛着をもつようになっていく。

【単元に関わる見方】 学校、家庭及び地域の生活に関する内容

ア 地域への見方 イ 身近な人との関わり キ 身近な自然との関わり
ク 伝統と文化 ケ 学びの意義と学び

【取り扱い内容の重点項目】

① 地域と生活 (3) 公共物や公共施設の利用 (4) 季節の変化と生活 (5) 生活や出来事の伝え合い (8) 自分の成長 (9)

資質・能力

【知識及び技能の基礎】

・地域のさまざまな場所を訪ねたりその場所の魅力について話し合ったりする活動を通して、地域の場所と自分との関わりを見付け、地域にはさまざまな場所があり、さまざまな人がいることに気付くことができる。

【思考力、判断力、表現力等の基礎】

・地域のさまざまな場所を訪ねたりその場所の魅力について話し合ったりする活動を通して、地域の場所や人と自分との関わりについてまとめたり、仲間に伝えたりすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

・地域の人々と関わる活動を通して、地域の場所や人に愛着をもち、適切に接したり、安全に気を付けて生活したりしようとしてすることができる。

次	児童の願い	教師の支援
1	① 『春の柳津町探検隊』について思いだそう 柳津公民館（柳津図書館）やブルーベリー農園、カラフルタウンは、どんなところなのかを交流したい。 春の探検隊はとて大さな。私の家はここよりかな。私の家の近くには、消防署があるよ。消防車や救急車がおいてあるよ。近くにカラフルタウンもあるよ。でも、他にはどんな場所があるかよく知らないかな。調べてみたい。ブルーベリー農園の「吉村さん」に会ったこともあるよ。とても、優しい人だったよ。道の駅では、どんな人が働いているのかな。先生の地元の様子を聞いて、私も町の人ももっと仲良くなって柳津の「まちのすてき」をたくさん見つけたいと思う。 ② 『秋の柳津町探検隊』の計画を立てよう 柳津公民館（柳津図書館）やブルーベリー農園、カラフルタウンに行って、〇〇を聞いてみたい。 どこに行こうかな。柳津公民館の館長さんが、秋の探検はいつ来るのか聞いていたから一番に行きたいな。交通や柳津駅にも行けないかな。地図を見ると、学校から家に半分に分けた方がいんじゃないかな。ブルーベリー農園は、方向が違うけど行きたいね。見学の時には、建物の大さや色、形を見たいな。中で働いている人を見ることができたら、服装も見てみたいね。駅の近くの道は車がよく通るから安全に気を付けて歩かないといけないよ。柳津町のいいところをいっぱい見つけられるようにしたいな。	・春の「やないづたんけんたい」でみつけた場所でもっと知りたい場所はあるかな（声かけ） ・春の「やないづたんけんたい」を思い出せるように、春の町探検でまとめた地図を準備しておく。（場の設定） ・どんな場所があったかを中心に自分が心に残った場所や人について交流させる。（意図的な交流・グループ交流） ③ 新しい物や人との出会いから興味や疑問をもつ。
2	③ ④ 秋の柳津町探検隊パートⅠ（全員で探検） 柳津公民館（柳津図書館）に行って、〇〇を見たり、聞いたりしたい。 公民館は、何をするところかな。どんな部屋があるのかな。図書室の中は、どんなふうになっているのかな。学校のセンター（図書室）とどこが違うのかな。学校の図書室には、季節の飾りやコーナーがあるよ。仕事をしたい、楽しいことは何だろう。仕事をしたい、大変なことは何だろう。工夫していることは、あるかな。 ⑤ 町探検パートⅠをふりかえろう 自分が見つけた「すてき」を発表したい。他の子が見つけた「すてき」を聞いてみたい。 どんなところがすてきだったのか詳しく話していたよ。気になったことを質問したり、感想を言ったりしてわかりやすかったのが良かったな。 ⑥ ⑦ 秋の柳津町探検隊パートⅡ（全員で探検） ブルーベリー農園とカラフルタウンに行って、〇〇を見たり、聞いたりしたい。 ブルーベリー農園の中は、どんなふうになっているのかな。作っているのはブルーベリーだけかな。どんな仕事をしたい、楽しいことは何だろう。カラフルタウンにはたくさんのお店があるね。映画館もあって車もたくさん展示してあるよ。お店を案内してくれる人もいるね。公民館や図書室と違うところがあるよ。お店には、秋らしいものが置いてあるよ。 ⑧ 町探検パートⅡでわかったことをつたえよう 自分が見つけた「すてき」を発表したい。他の子が見つけた「すてき」を聞いてみたい。 どんなところがすてきだったのか詳しく話していたよ。気になったことを質問したり、感想を言ったりしてわかりやすかったのが良かったな。 ⑨ ⑩ 秋の柳津町探検隊パートⅢの計画を立てよう 自分だけの「まちのすてき」を探するための計画を立てよう。 道の駅の「すてき」をみつけよう。宮上公園のメタセコイアの木はどうなっているかな。知りたいことや聞きたいことがたくさんあるから、知りたいことをメモしておこう。 ⑪ ⑫ ⑬ 秋の柳津町探検隊パートⅢ（3つのコースに分かれて探検） 北コース・コース、南東コースに分かれて、自分だけの「まちのすてき」を探したい。 北コース：消防署、河村屋さん、宮上公園 西コース：児童館、佐渡交番、コナズコーヒー、もえぎの里 南東コース：道の駅、永田染工、南塚公園 「まちのすてき」をたくさん見つけてよう。タブレットで写真を撮って後でみんなに見せたい。 ⑭ 町探検をふりかえろう（本時） 自分が見つけた「すてき」を発表したい。他の子が見つけた「すてき」を聞いてみたい。 河村屋さんは、給食の材料を届けてくれるよ。宮上公園のメタセコイアの木は実をつけていたよ。春は暖かくなったのに葉っぱが赤くなっていたよ。コナズコーヒーは、1年中夏だよ。ハワイのものがいっぱいあるよ。道の駅には、「夢の館」があって夢をかなえるために叫ぶといいそうだよ。	・今日は、どんなところを見たりどんなことを聞いたりしたいですか。（声かけ） ・全員で行くので、見学メモを中心に聞き取ったことを書かせる。写真や動画は、教師が代表で撮るようにする。（場の設定） ・安全や時間など見学の約束を確認してから探検に出かける。 ④ 新しい物や人との出会いから興味や疑問をもつ。 ・〇〇さんと〇〇さんの交流の様子を見てみて、「すてき」だと思ったところはどこですか。（声かけ） ・公民館（図書室）の「すてき」をたくさん見つけられたね。 ・関連する画像をテレビ画面で見せながら思い出させる。（場の設定） ⑤ 実感を抱いた教師の言葉かけから、異なる思いを生む。 ・今日は、どんなところを見たりどんなことを聞いたりしたいですか。（声かけ） ・全員で行くので、見学メモを中心に聞き取ったことを書かせる。写真や動画は、教師が代表で撮るようにする。（場の設定） ・安全や時間など見学の約束を確認してから探検に出かける。 ⑥ 見聞が生まれるパターン ⑦ 見聞が生まれるパターン ⑧ 見聞が生まれるパターン ⑨ 実感を抱いた教師の言葉かけから、異なる思いを生む。 ・行きたい場所ごとにグループを組み、グループごとに探検の計画を立てさせる。 ・リーダーなどグループでの役割分担を決めておく。探検地図を用意する。（場の設定） ⑩ どんな質問をしたいかここで相談しておく。 ⑪ 見聞が生まれるパターン ⑫ 見聞が生まれるパターン ⑬ 見聞が生まれるパターン ⑭ 新しい物や人との出会いから興味や疑問をもつ。 ・今日は、自分が調べたコースとは、違うコースの子と交流してみよう。どんな「まちのすてき」があるのかな。（声かけ） ・次単元「つたえたいまちの生活」の活動への接続を意図して作品を作るなどの大がかりな発表とはせず、タブレットの写真などを活用して話をしたり聞いたりできるようにする。（場の設定） ・「まちのすてき」を知った自分の成長が自覚できるよう価値付け。 ⑮ 新しい物や人との出会いから興味や疑問をもつ。

単元後の児童の願い

町探検で分かったことを、他の人にも伝えてみたい。

つながる 広がる わたしの生活

「つたえたいまちのすてき」

6 本時に関わって (14/14)

(1) 本時のねらい

自分が見つけた「まちのすてき」を話したり、仲間の「すてき」を聞いたりする中で、柳津町への愛着を深めたり、柳津町にはくらしを支えてくれる人がたくさんいることに気付いたりすることができる。
【思考力、判断力、表現力等の基礎】

(2) 本時の展開

学 習 活 動	指導・援助
○めあてをつくる。 T：今回は、それぞれのコースに行って、町探検をしましたね。 どんな「まちのすてき」を見つけたかな。 C：みんなが知らない「すてき」を見つけたよ。早く話したいな。 C：みんなが見つけた「すてき」をいっぱい知りたいな。	・やないづの「まちのすてき度」に今の自分の気持ちをネームプレートで貼ることで、見える化する。(ちょっとすてき→すてき→すごくすてき)
【めあて】 やないづの「まちのすてき」をたくさん話そう。たくさんきこう。	願いが生み出されるパターン ①実態を把握した教師の声かけから生む。
○自分の願いを明らかにする。 T：今日の自分の願いをペアに伝えましょう。 C：わたしは、道の駅で見つけた「すてき」をたくさん話したいです。 C：ぼくは、ハワイアンカフェの「ひみつ」を教えたいです。	・「黒板に視覚化されている児童の気持ちの中身を問うことで、メタ認知力を高める。」 ④新たな物や人との出会いから、興味や疑問をもつ。
○スクラブル交流をする C₁：道の駅の「すてき」を紹介します。働いている人は、とても優しい人でした。質問にもたくさん答えてもらえました。屋上に「平和の鐘」があって、叩くといい音がしました。 C₂：どんな質問をしたの？ C₁：「道の駅ではどんなものを売っているのですか」と聞いてみたよ。そうしたら、季節の野菜を売っていることがわかったよ。今は、大根やホウレン草を売っていたよ。 C₃：永田染工さんの「すてき」を紹介します。糸をいろいろな色に染めていて虹みたいにとってもきれいでした。 C₄：糸は何に使うの？ C₃：服や布を作る工場に届けると言っていたよ。	・「マップ」に写真や、そのコースに行った子の出席番号が分かるマークを位置付けることで、それを見ながら違うコースに行った児童と交流できるようにする。
○自分の「まちのすてき度」を確認する。 T：色々な人と交流することができましたね。みなさんの「まちのすてき度」は、変わりましたか。気持ちが変わった人は、動かしにきてください。 T：どうして〇〇さんは、「すごくすてき」に変わったの。 C₁：〇〇さんの発表を聞いて、みんなに美味しい給食を食べてもらうために毎日材料を届けてくれる「河村屋さん」の気持ちがよく分かったからです。 C₂：救急車は見たことがあったけど、中までは見たことがなかったから、今日それが知れて嬉しかったからです。 T：柳津町には、みなさんが安心して楽しく暮らせるようにしてくれる「すてき」な人がいたり、「すてき」な場所があったりするのですね。	・話すことで困っている子に声をかけたり、どうしても一人で話せない子には、写真や動画を見せるだけでも良いことを伝えたりして、安心して交流できるようにする。 ・詳しく話をしていたり、質問をしていたりする子を紹介することで、交流を円滑に進められるようにする。 ・そういう気持ちになった理由を問うことで、メタ認知力を高める。
○ベンチトークで振り返りをする。 C：今日の満足度は、星3つです。どうしてかというと、自分が「すてき」だと思ったことを友達に教えることができたからです。 C：今日の満足度は、星3つです。知らなかった「すてき」を見付けたからです。 C：今日の満足度は、星2つです。柳津町の「すてき」なことをたくさん知ったけど、自分で確かめたいからです。	評価規準 柳津町への愛着を深めたり、柳津町にはくらしを支えてくれる人がたくさんいることに気付いたりすることができる。【思考・判断・表現】(発言、振り返り) ・「すてき発見マップ」に印をつけることで、単元を通しての振り返りをし、自分の成長の変化が分かるようにする。

第3学年 理科学習指導案

1 単元名「物の重さ」

2 単元の目標

物の形や体積に着目して、重さを比較しながら物の形や体積と重さを調べる活動を通して、それらについての理解を図り、実験などに関する技能を身に付けさせるとともに、主に差異点や共通点を基に、問題を見出す力や主体的に問題を解決しようとする態度を育成する。

3 単元の構想

本単元は、「粒子」についての基本的な概念を柱とした内容のうちの「粒子の保存性」に関わるものであり、第5学年「物の溶け方」の学習につながるものである。

第1次では、身の回りにある形を変えられるものを、広げたり、いくつかに分けて丸めたりするなどして形を変え、手ごたえなどの体感を基に、重さを数値化して比較しながら調べていく。物は、形が変わっても重さは変わらないことを捉えるようにする。

第2次では、物の体積に着目して、複数の種類の身の回りにある物を、体積を同じにして、手ごたえなどの体感を基に、重さを数値化して比較しながら調べていく。物は、体積が同じでも重さが違うことがあることを捉えられるようにする。

4 授業の見どころ

① 終末において、追究する対象を広げ自分の問題を見出す場面

前単元「太陽を調べよう」の学習で、日なたと日かげの地面の温度が違うこと、はね返した日光はまっすぐに進むこと、はね返した日光が当たったところは、明るく温かくなることなど、日光の性質を学習している。単元末には、「他の光はどうか」という視点で追究する対象を広げ、児童にとって身近である懐中電灯の光も日光と同じ性質があるのかを調べている。教科書に載っているものだけでなく、他のものへと追究する対象を広げていったことでより光についての理解が深まることを実感している。

本時は、物質によって同じ体積にしても重さが異なることを実験によって明らかにした後、「他のものはどうか」という視点で追究する対象を広げていく場面である。追究する対象を広げ、自分の問題を見出していく1つの方法として、結論の最初の部分を他のものへと変えていくことを学んでいる。本時においても、食塩、砂糖以外に自分が調べてみたいものを自分の問題としてノートに書き、クラスの問題へと集約していく。児童は、どのような問題を見出しているのか、教師は児童の見出した問題をどのように集約しているのかを見ていただきたい。

5 単元指導計画（全8時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点
1 物の形と重さ	1	○問題の見出しを行う。 T：みなさんの目の前に同じ重さの粘土があります。この粘土を自分の好きな形にしましょう。自分がつくった物と、友達がつくったものの重さ比べをします。 C：丸い形と平たい形を比べると、平たい方が軽いです。 C：自分の粘土と友達の粘土を比べても、重さは変わらないように感じます。 T：人によって感じ方が違っているね。疑問に思うことや、はっきりさせたいことをノートに書きましょう。	問いが生み出されるパターン ②2事象の差異点からその原因を考える。 ・形の違う粘土の重さを比べることで、人によって感じ方が違うことに気づき、形を変えたときの重さの変化をはっきりさせたいという思いから問題を見出す。
	2	自分の問題 ・粘土の重さを30gにそろえたのに、形を変えると重さが変わってしまったのはどうしてか。 ・粘土の形を変えると重さが変わるという人もいれば、変わらないという人もいるから、どちらが正解なのかははっきりさせたい。 クラスの問題 ねん土の形を変えると、重さはかわるのか。	
	3	クラスの結論 ねん土の形を変えても、重さは変わらない。 ○問題を見出してから、結論を導き出すまでの過程を振り返る。 C：今日は、粘土の形を変えても重さは変わらないということが分かりました。結果の予想と結果が違ったのは、仮説が違っていたからだと思いました。どうしてかということ、形を変えた時の重さが同じだったからです。 ○新たな問いを見出す。 T：結論の最初の部分を変えると、新たな問題を作ることができたね。次に調べてみたいものは何ですか。ノートに書きましょう。 自分の問題 ・折り紙の形を変えると、重さは変わるのか。 ・上着の形を変えると、重さは変わるのか。 ・ブロックの形を変えると、重さは変わるのか。	振り返りの視点 内容知 ・結果から分かったこと 方法知 ・結果の予想と結果が異なった原因 問いが生み出されるパターン ⑤既存の概念の適応範囲の変更 ・調べる対象を広げていくことで一般化できることやそのよさを確認し、自分の問題へとつなげていく。
	4	クラスの問題 物は形を変えると、重さはかわるのだろうか。 クラスの結論 物の形を変えても、重さは変わらない。 ○問題を見出してから、結論を導き出すまでの過程を振り返る。 C：今日は、折り紙の形を変えて重さが変わるのかを調べました。折る前と折った後では、重さは変わっていませんでした。他の子の結果を見ても、重さは変わっていなかったのので、物は形を変えても重さは変わらないと分かりました。	

2 物による重さのちがい	T:身の回りにある白い粉を用意しました。塩と砂糖です。重さ比べをすると、どんな結果になると思いますか。 ~ 実際に塩の袋と砂糖の袋を見童に持ち上げさせる ~ C:塩の袋の方が軽くて、砂糖の袋の方が重たいよ。 C:でも、砂糖の袋の方が大きいから重いのだと思う。 C:同じ大きさの袋に入れないと、重さを比べることはできないと思う。 T:塩と砂糖を同じ量にすれば、重さ比べはできそうですか。 T:物の大きさ(かさ)のことを体積と言います。体積を同じにして、塩、砂糖の重さを比べましょう。 【活動】 塩と砂糖を同じ体積にしたとき、重さはちがうのか調べよう。 5 ・ 6 ○仮説を立てる。 C1:塩、砂糖は同じぐらいの重さだと思います。理由は見た目が似ているから、重さも似ていると思います。 C2:塩の方が重いと思います。理由は、塩の袋を持った時に、小さい袋だったのに重く感じたからです。 ○実験計画を立てる。 ①同じ大きさの容器を2つ用意する。 ②それぞれに塩、砂糖を山盛り入れる。 ③山になった部分をすり切って、体積を同じにする。 ④はかりで重さを量る。 ○結果の予想をする。 C1: 塩の重さ = 砂糖の重さ C2: 塩の重さ > 砂糖の重さ ○実験を行い、結果をまとめる。	・大きさの異なる塩の袋と砂糖の袋を持たせ、重さを比べるには体積を同じにしないといけないことに気付くことができるようにする。 ・体積という言葉の意味をおさえる。 ・前の学習と生活経験を仮説の根拠として指導しているが、今回は前の学習や生活経験とつながりが乏しいため、あまり追究しない。 ・児童が実験計画を立てる際、同じ容器を準備することは発想できるが、すり切る作業は発想できない可能性があるため、必要に応じて補足で説明する。
7 本時	クラスの結論 塩と砂糖を同じ体積にしたとき、重さはちがう。 ○問題を見出してから、結論を導き出すまでの過程を振り返る。 C:今日は塩、砂糖を同じ体積にして重さを調べました。塩の方が砂糖よりも重いことが分かりました。 塩と砂糖が混ざってしまって実験がやり直しになってしまったので、気を付けたいです。 ○新たな問いを見出す。 T:次に調べてみたいものは何ですか。ノートに書きましょう。 自分の問題 ・チョークのこな、えんぴつのこなを同じ体積にしたとき、重さはちがうのかを調べたいです。理由は、他の粉も重さが違うのか知りたかったからです。 ・しょうゆ、ドレッシングを同じ体積にしたとき、重さはちがうのかを調べたいです。理由は、粉だけでなく水みたいなものも知りたいからです。	振り返りの視点 内容知 ・結果から分かったこと 方法知 ・結果の予想と結果が異なった原因 問いが生み出されるパターン ⑤既存の概念の適応範囲の変更 ・調べる対象を広げていくことで一般化できることやそのよさを確認し、自分の問題へとつなげていく。

	8	クラスの問題 いろいろな物を同じ体積にしたとき、重さはちがうのか。 クラスの結論 いろいろな物を同じ体積にしたとき、重さはちがう。 ○問題を見出してから、結論を導き出すまでの過程を振り返る。 C:今日は、しょうゆ、みりん、ドレッシングを同じ体積にしたときの重さを調べました。重さはどれも違っていました。他の子の結果を見ても、重さは違っていたので、いろいろな物は同じ体積のとき重さは違うことが分かりました。	振り返りの視点 内容知 ・結果から分かったこと 方法知 ・結果の予想と結果が異なった原因
--	---	--	--

6 本時に関わって (7/8)

(1) 本時のねらい

塩と砂糖は体積を同じにしたときに重さが異なるということを結論付けるとともに、「他のものはどうか」という視点で追究する対象を広げ、問題を見出すことができる。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 本時の展開

時	学 習 活 動	指導上の留意点
7 本 時	○自分の結論を書く。 C1: 結果の予想と結果は違っていました。私の仮説は確かめられませんでした。よって、塩と砂糖を同じ体積にしたとき、重さは違うと分かりました。 C2: 結果の予想と結果は合っていました。私の仮説は確かめられました。よって、塩と砂糖を同じ体積にしたとき、重さは違うと分かりました。 ○自分の結論を全体で交流し、クラスの結論としてまとめる。 クラスの結論 しおとさとうを同じ体積にしたとき、重さはちがう。 ○問題を見出してから、結論を導き出すまでの過程を振り返る。 C1: 今日は塩と砂糖を同じ体積にして重さを調べました。塩の方が砂糖よりも重たいことが分かりました。実験をしていて、塩と砂糖が混ざってしまうことがあったので気を付けたいです。 C2: 塩と砂糖を同じ体積にしたとき、重さは違うことが分かりました。結果の予想と結果が違っていたのは、仮説が違っていたからだと思いました。どうしてかということ、他の班の結果も自分たちと同じ結果だったからです。 ○新たな問いを見出す。 T: 同じ体積にしたとき、塩と砂糖の重さは違うことは分かりました。次に重さ比べをしてみたいものは何ですか。ノートに書きましょう。 C1: チョークの粉、えんぴつの粉でも調べてみたいです。どうしてかということ、塩と砂糖と同じ粉だからです。 C2: 牛乳やカルピスを調べてみたいです。どうしてかということ、見た目が似ているし、水みたいなものでも重さが違うのかを知りたいからです。 C3: 水でも粉でもないものについても調べてみたいです。 T: みんなから調べてみたいと出てきたものを大きく分けると、「他の粉」、「水みたいなもの」、「水でも粉でもないもの」の3つですね。この3つをひとつにまとめると、「いろいろな物」になりますね。次の時間に、同じ体積にしたときに重さがちがうのかを調べていきましょう。 クラスの問題 いろいろな物を同じ体積にしたとき、重さはちがうのか。	自分の結論の書き方 ①結果の予想と結果は合っていたのか。 ②自分の仮説は確かめられたのか。 ③結論は何か。 振り返りの視点 内容知 ・結果から分かったこと 方法知 ・結果の予想と結果が異なった原因を考える。 ・正確に実験を行うために気を付けたこと。 新たな問い ・もっとやってみたいこと ・新たな問いを見出すことが困難な児童には、前単元で行ったように、結論の最初の部分を変えて、追究する対象を広げていくとよいことを伝える。 問いが生み出されるパターン ⑤既存の概念の適用範囲の変更 ・調べる対象を広げていくことで一般化できることやそのよさを確認し、新たな問いの見出しへとつなげていく。 塩と砂糖は体積を同じにしたときに重さが異なるということを結論付けるとともに、「他のものはどうか」という視点で追究する対象を広げ、問題を見出している。【主体的に学習に取り組む態度】

第6学年 理科学習指導案

1 単元名「てこのはたらき」

2 単元の目標

加える力の位置や大きさに着目して、これらの条件とてこの働きとの関係を多面的に調べる活動を通して、てこの規則性について理解を図り、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主により妥当な考えをつくりだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。

3 単元の構想

本単元は、第5学年「A(2)振り子の運動」の学習を踏まえて、「エネルギー」についての基本的な見方や概念を柱とした内容のうちの「エネルギーの見方」にかかわるものであり、中学校第1分野「(5)イ 力学的エネルギー」の学習に関わるものである。

第1次では、1本の棒を使って重い物を持ち上げる活動を行う中で気付いたことや疑問に思ったことから、差異点や共通点を基に、おもりを楽に持ち上げる方法について問題を見出し、作用点の位置や力点の位置を変えると、てこを傾ける働きが変わることを捉えるようにする。

第2次では、てこが水平につり合うときのきまりについて問題を見出し、予想や仮説を基に解決の方法を発想し、てこが水平につり合うときのきまりは、力の大きさと支点からの距離の積で表すことができることを捉えるようにする。

第3次では、てこの働きについて学んだことを生かして、身の回りには、てこの規則性を利用した道具があることを捉えるようにする。

4 授業の見どころ

① 授業導入の事象提示から児童が問題を見出す時の教師の発問の吟味

問いの見出しのパターン ⑤ 既有的概念の適用範囲の変更（拡張・限定）

本時では、前時行った実験（実験用てこにおもりを一カ所ずつかけて決まりを見つける実験）の様子の写真（2カ所以上におもりをかけているグループ）を提示することを通して、おもりを2カ所以上にかけても力の大きさ×支点からのきよりの積が左右で等しくなる時につり合うというきまりが成り立つのかという問いを見出せるようにしたい。

② 実験を行う中で問いを深める

実験を行う中で、自分から「ここをこうしたら、こうなるのでは」と検証を行い、問いを自分たちで深める姿を期待したい。そのために、どの子も実験を行う目的を理解する必要があるため、実験方法、結果の予想を行う場面で、実験用てこのイラストを用いたり、具体的に実験方法を共に考えたりすることで、個別の支援を行う。

5 単元指導計画（全8時間）

次	時	学習内容	指導上の留意点
1 てこのはたらき	1・2	T: 棒を使って、おもりを1番楽に持ち上げられる方法を考えよう。 C: おもりの位置を棒の端にするとすごく重たいけれど、中心に近づけると軽く感じた。 C: 棒を持つ位置を変えた時は、手が中心に近いと重く感じて、手が中心から遠いと軽く感じる。 C: どうしておもりの重さは変わっていないのに、重く感じたり軽く感じたりするのかな。 C: おもりの位置や手の位置が関係していることが分かった。そこをもっと詳しく知りたい。 ○「てこ」、「支点」、「力点」、「作用点」の用語とその意味を知る。 【クラスの問題】 てこを使って、できるだけ小さい力で重いものを持ち上げるには、どのようにしたらよいのだろうか。	問いが生み出されるパターン ④ 既存の概念と事象提示との認知的葛藤から原因や既存の概念の修正を図る。 ・ おもりの重さは変わらないのに、なぜおもりの位置や力を加える位置を変えることで、手ごたえが変わるのかという疑問から、問題の見出しにつなげる。
	3	【結論】 てこを使って、おもりを持ち上げるとき、支点と作用点の間のきよりを短くし、支点と力点との距離を長くすると小さな力で持ち上げることができる。 ○ 振り返りから新たな問いを見出す。 新たな問い ・ 手ごたえでは正確さに欠けるので、手ごたえを数値で表したい。 ・ もっと重いものを自分の力で持ち上げてみたい。	振り返りの視点 ・ さらに追究したいこと ・ さらに追究したほうがよいこと ・ その問いを解決できると、どんないいことがあるのか
2 てこが水平につり合うとき	4・5	○ 力の大きさは、おもりの重さで表すことができること。実験用てこのうでがどちらにもかたむいていない状態のことを、水平につり合うということを理解する。 T: つり合っている2枚の写真を見て、気付いたことはありますか。 C: どちらも水平につり合っているけれど、右側のおもりの数が違う。 C: おもりの数だけでなく、おもりの位置にも違うところがある。 C: おもりの位置や数がどんな時に、水平につりあうのだろうか。 【クラスの問題】 てこが水平につり合うときには、どのようなきまりがあるのだろうか。	問いが生み出されるパターン ② 2事象の差異点からその原因を考える。 ・ 2枚の写真から左右のおもりの数や場所が違うのに水平につり合っているという状況の写真を見て問題の見出しにつなげる。
	6	【クラスの結論】 てこが水平につり合うときには、左のうでと右のうでの力の大きさ（おもりの重さ）× 支点からのきより（おもりの位置）の値が等しくなる。 ○ 振り返りから新たな問いを見出す。 新たな問い てこが水平につり合うときのきまりが分かったので、身の回りてこの仕組みが使われているものを探してみたい。	振り返りの視点 ・ さらに追究したいこと ・ さらに追究したほうがいいこと ・ その問いを解決できると、どんないいことがあるのか

	7 (本時)、 8	T: 前回の時間のあるグループの写真です。前回みんながやっていた実験と何が違う? C: おもりをかける位置が2カ所になっている。 C: 2カ所かけているのにつり合っている。 T: 今日の時間に調べるといいことはなんだろう。 【クラスの問題】 おもりをかける場所を増やしても、前回のとこの法則は成り立つのだろうか。 【クラスの結論】 おもりをかける場所を増やしても、てこの法則は成り立つ。	問いが生み出されるパターン ⑤ 既存の概念の適用範囲の変更 (拡張・限定) ・ 前時習得したてこの法則の条件にない事例を写真で見ることで、てこの法則が他の事象でも適用できるのかという問題の見出しにつなげる。 ・ 実験中にも、こうしてみたら法則が成り立つはずだと、問いを深めながら活動を行うことができる。
3 てこを利用した道具	9	T: パールは、てこが利用されていると言えるのでしょうか。 【活動】 パールを使って釘を抜き、てこが利用されているのか調べる。 C: 持ち手を支点から遠いところで持つと簡単に抜けた。 C: 支点と近いところで持つと抜くのが大変だった。 C: パールはてこを利用してそうだ。 T: この3つの道具にも、てこが利用されていると言えるのでしょうか。 【活動】 せんぬき、ピンセット、ペンチは、てこを利用しているのか調べよう。 【クラスの結論】 せんぬき、ピンセット、ペンチは、てこを利用している。 ○新たな問いを見出す。 T: 次に調べてみたいものは何ですか。ノートに書きましょう。 自分の問題 ・ 給食で使っているトンゴもピンセットと形が似ているからてこが使われているか知りたい。 ・ 他にも日常生活でてこを利用しているものを知りたい。 【クラスの問題】 身のまわりにある道具で、てこが利用されているものは何があるのだろうか。	振り返りの視点 ・ さらに追究したいこと ・ さらに追究したほうがいいこと ・ その問いを解決できると、どんないいことがあるのか 問いが生み出されるパターン ⑤ 既存の概念の適用範囲の変更 (拡張・限定) ・ 複数の例示された道具から、もっと多くのものにてこが利用されているのではないかと、という児童の気づきから、問題の見出しにつなげる。
	10	【クラスの結論】 身のまわりにある道具には、パンチ、ピンセット、はさみなどに、それぞれの道具の使い道や使い方に合わせて、てこが利用されている。	

6 本時に関わって（7/10）

（1）本時のねらい

前時学んだ、てこの法則（「力の大きさ×支点からの距離」が等しいときつり合う）が、おもりをかける場所が増えても成り立つのか、主体的に考え、さまざまなパターンから調べることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

（2）本時の展開

時	学 習 活 動	指導上の留意点
7 本 時	○前時の復習を行う。 T: 前の時間に実験を行って、てこは「力の大きさ×支点からのきより」（てこを傾けるはたらきの大きさ）が左右で同じになったときにつり合うことが分かりましたね。 ○問題を見出す。 【事象提示】前時の実験中の写真（おもりを2カ所につりさげているグループの実験風景）を見る。 T: 前回行った実験の写真です。このグループは、みんながやっていた実験と何が違う？ C: おもりをかける位置が2カ所かけている。 C: 2カ所かけているけどつり合っていない。 T: 今日の時間に調べるといいのは何だろう。 【クラスの問題】 おもりをかける場所を増やしても、前回のとこの法則は成り立つのだろうか。 ○仮説を立てる。 ・成り立つ。力の大きさ×支点からの距離の積が同じならばつり合いそう。 ・成り立たない。2カ所以上にかけると前回とは違う新しい法則ができそう。 ○実験計画を立てる。 C: 左のうでの決めたところにおもりをかけ、右のうでの複数の場所におもりをかけ、つり合うか確認する。 （実験方法を考えられない児童への個別の支援） T: おもりをかける場所を決めてみよう。 C: 右の4つ目に2つかける。 T: じゃあ、左2カ所以上かけて、つり合うおもりのかけ方を見つけてみよう。 ○結果の予想をする。 C: 右の5つ目に2個かけたら、左の2番目に2個と3番目に2個かけるとつり合うはずだ。 （結果の予想が考えられない児童への個別の支援） 実験用てこの図を渡す。 T: どこに何個おもりをかける予定だった？ C: 右の4つ目に2個かける予定だった。 T: じゃあ、左のどこにかけるとつり合うと思う？ イラストを使い予想する。 ○観察実験し、結果をまとめる。 C: 右の5つ目に2個かけたら、左の2番目に2個と3番目に2個かけるとつり合った。他の場所にかけてもつりあうのか確かめてみよう。 T: どういうきまりがありそう？前のとこの法則と同じといえそう？ C: 右の4つ目に4個かけた時、傾く力は4×4で16になるから、傾く力が16になるように左にもおもりをかければいい。だから、前のとこの法則と同じだと思う。 （自分で実験を進められない児童への個別の支援） T: 自分が考えたところにかけてみてそうだった？ C: 予想通りつり合った。 T: どんな決まりがありそうかな？右の4つ目に4個かけた時、傾く力は4×4で16になるから、傾く力が16になるように左にもおもりをかければいい。だから、前のとこの法則と同じだと思う。 T: 他の所におもりをかけてもこのきまりが成り立つのか調べてみよう。	・児童が事象提示や実験結果の予想を行う際に、前時について想起しやすいように、復習を行う。 問いが生み出されるパターン ⑤ 既有的概念の適用範囲の変更（拡張・限定） ・前時習得した、てこの法則の条件にない事例を写真で見ることで、てこの法則が他の事象でも適用できるのかという問題の見出しにつなげる。 ・実験方法を考えられない児童に対しては、適当な条件を一緒に決めることで活動をスタートしやすくする。 ・結果の予想が考えられない児童に対しては、実験用てこのイラストを用いて、どこにかければつり合うか、イラストに描きこむよう指導することで考えるためのハードルを下げる。 ・おもりがつり合った場面をロイロノートの共有ノートで随時共有する。 ・実験中に見つけた法則が、前時の法則とどのようにかわりがありそうか、机間指導を通して児童に問いかけ、ここで見つけた法則が前時の拡張版であることを意識するよう指導する。 ・一か所だけでなく、つり合うさまざまなパターンを実験するように声をかけることを通して、児童が自分たちで新たな問いを生み出し、検証することができるようにする。 前時、学んだてこの法則（「力の大きさ×支点からの距離」が等しいときつり合う）が、おもりをかける場所が増えても成り立つのか、主体的に考え、さまざまなパターンから調べている。（実験中の様子、ノート・交流での発言）【主体的に学習に取り組む態度】

第3学年社会科学学習指導案

1 単元名 「くらしを守る」

～事件や事故からくらしを守る～

2 単元の目標

事故や事件から地域の安全を守る働きについて、施設・設備などの配置、警察署による緊急時への備えや対応などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりする。また、まとめることで関係機関や地域の人々の諸活動をとらえ、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して事故の防止に努めていることを理解できるようにする。さらに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことをもとに地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとする態度を養う。

3 単元の構想

本単元では学習指導要領の内容(3)に関わるものであり、第1次では消防署、第2次では警察署について扱う。見学・調査などから、諸機関の活動を捉え相互に協力しながら地域社会の安全を守っていることが理解できるようにする。

また、小単元の最後には、学んだことをもとに自分自身や地域の安全を守るために自分で出来ることを考えようとする態度を養う。

4 授業の見どころ

①児童が問題や願いを見出す時の思考の流れに沿った教師の支援

単元の導入時に、自分の知っていることを整理し、そこからさらにくわしく知りたいことや調べたいことを出し合い、見通しをもって学習を進められるようにした。本時は、単元で学んだこと(事実)や、導入時に警察官や地域の人の「まちのみなさんと協力しながら安全な地域づくりをしていきたい」というメッセージを紹介し、その気持ち(願い)に応えるために今の自分に何が出来るのかを考える時間である。

本時の個人追究の場面では自分の考えをもつために、ロイロノートに既習内容や、他地域で行われている取組を紹介する資料を用意し、どの授業においてもスムーズに考えつくりに取り組むことができるようにする。

単元を貫く課題を生み出すための発問・資料（第1，2時） 3年生「くらしを守る」【全15時間】

T:何をしている写真かな。
C:火事の時に火を消しているよ。
C:けがや病気の人を救急車で、病院へ運んでいるよ。

資料1

T:消防士さんは普段どう過ごしているんだろうね。
C:訓練をして鍛えている。
C:24時間休みなく仕事をしている。(いつでも来てくれる)火を消しているよ。

資料2

T:これは、何をしている写真でしょう。
C:パトロールしているよ。
C:困った人を助けているよ。

資料3

T:警察官はどんな仕事をしているんだろうね。
C:悪いことをした犯人を捕まえるよ。
C:交通違反をした人を捕まえるよ。
C:交通事故の原因を調べるよ。

資料4

①火事が起きた時や通報があった時、どれくらいの時間でかけつけたり、どれくらいの時間で助けたりするの？
②消防署では、どんな道具を使っているの？消防車や救急車のしくみを詳しく知れば、火を消したり安全に運んだりする秘密が分かると思う。

①24時間休みなくやっているけど、通報がない時はどんなことをしているの？1日の生活が知りたいな。
③もしも火事になってしまったらどんなことができるのか知りたいな。火事にならないようにできることを知って家族に教えたいな。

①どんな事件や事故が多いの？どれくらいの時間でかけつけて、解決するためにどんなことをするの？
②警察署では、どんな道具を使っているの？パトカーや白バイ、それ以外の大きい車や、警察官の身につけている道具について詳しく知りたいな。

①パトロールをしていることは知っているけど、どんなことをしているの？通報やパトロール以外に1日何をしているの？
③事故や事件を減らすためにできることを知って家族に伝えたいな。(切実性)

【問いを生み出すパターン】 ①児童の願いを実現する方法を考える。 ②2事象の比較からその要因を考える。
③既存の概念の適用範囲の変更(拡張・限定)

・火事の際は消防署の人だけが火を消すと思っていたけど、警察官や消防団の人も来ていろいろな人が協力していることがわかったよ。
・火事からくらしを守るための消防署の仕事や、安心してくらすためのまちづくりをしようと消防士さん達が地域のひとと協力し合っていることを知って、家に火災報知器をつけるように家族に提案しようと思ったよ。
・消防署と仕組みが似ていると思ったよ。事故の時もお互いに協力していることが分かったよ。
・地域では私たちの安全を守るためにたくさん努力してくれていて感謝したいな。
・いつも登下校の時しっかり並べていないから、命を守るためにきちんとルールを守ろうと思うよ。家族にも交通ルールを守るように呼びかけたいな。

【単元の課題】 私達の生活を守るために、消防署や警察署の人達は、どんなことをどんな気持ちでしているのだろう。

	第3時 (火事で働く人)	第4,5時 (消防署の役割)	第6時 (身近な防火施設)	第7,8時 (じぶんたちにできること)	第9時 (事故や事件で働く人)
課題	課 火事が起きたらどのような人がどのようなことをするの だろう。	課 消防署の見学に行って、ど んな仕事をしているのか調 査しよう。	課 学校やまちにある消防施 設をさがそう。	課 消防士さんと協力をしている という地域の取り組みを調 べて、自分たちにもできるこ とを考えよう。	課 事故が起きたらどのような 人がどのようなことをする のだろう。
学習活動	・火事が起きた時のイラスト資 料を見て、気付いたことを話し 合う。 ・火事の現場には消防士が現 場にかかけつけて消火活動を行 い、そのまわりでさまざまな人 が協力して消火や救助活動を していることを理解する。	・実際に消防士の話を聞いたり、訓練の様子や道具などを見たりして、分かったことを整理する。	・学校の中の消防施設や消火栓がどこにどれだけあるのか実際に調べる。 ・まちの中の、消防施設を探す。 ・調べたことを地図等にまとめ、火事に備えた設備が身近にあることを理解する。	・消防士さんの思いをまとめた資料や、地域の人の活動の様子の写真資料(消防団の取り組みや子ども消防クラブの存在、市民防災訓練の実施)から、火事からまちを守る人々の努力を理解し、その思いに共感する。 ・学習してきたことや、火事からまちを守る人々の思いから、地域の一員として今の自分にできることを考える。	・事故が起きた時のイラスト資料を見て、気付いたことを話し合う。 ・事故が起きた時、さまざまな関係機関が通信指令室を中心に連携して解決するように動いていることを理解する。
まとめ	・警察官や消防防団の人にも来ていろいろな人が協力している。	・火を消すためにはたくさんの工夫がある。消防士さんは24時間交代しながらくらしを守ってくれている。学校とか会社に火事にならないように呼びかけや、パトロールをしている。	・学校やまちの中に火事に備えて、消火栓や消防設備がある。	・火事からくらしを守るための消防署の仕事や、安心してらせるまちづくりをしようと消防士さん達が地域の人と協力し合ってがんばっていることを知って、家に火災報知器をつけるように家族に提案しようと思った。	・消防署と仕組みが似ていて、事故の時もお互いに協力している。

	第10、11時 (警察署の役割)	第12時 (地域との連携)	第13時 (身近な防犯)	第14(本時)、15時 (じぶんたちにできること)
課題	課 警察署の見学に行って、どんな仕事をしているのか調査しよう。	課 警察官の仕事を支えている地域のしくみを調べよう。	課 まちの安全を守るために、地域ではどんな取り組みをしているのだろう。	課 まちの安全を守るために自分は何ができるのだろうか。
学習活動	・実際に警察官の話を聞いたり、仕事の内容や身に付けている道具などを見たりして、分かったことを整理する。	・交通事故を防ぐために警察官が行っている仕事について、警察官の話や活動の様子(写真資料)から日々の努力を知る。 ・交通管制センターを中心とした車の流れをよくするしくみがあることを知る。 ・地域には安全を守るための仕組みが整っていて、自分達の命が守られていることを理解する。	・車の数が増えているのに交通事故が減っているグラフ資料と既習内容を結び付けて、交通事故を減らし安全を守る警察官やまちの人の取り組みや努力についてまとめる。 ・交通事故だけでなく犯罪から身を守るための取り組みの様子から、地域の努力について理解する。(110番の家・青パト・防犯カメラ・PTAの巡回パトロール)	・学習して分かったことや警察官の思いから、交通事故を減らす、犯罪に巻き込まれないようにするために地域の一員として今の自分にできることを考え、家族へ提案することをまとめる。
まとめ	・警察署でいろいろな道具を見たり話を聞いたりして、消防署のように24時間交代しながらまちの安全を守るために仕事をしている。	・交通管制センターや1年間に地球158周分のパトロールなどでみんなの安全をまもっている。	・地域では私たちの安全を守るためにたくさん努力してくれていて事故がへってきている。	・はじめは、ポスターを描くことしか思いつかなかったけど、友達の意見を聞いて車を運転する家族にスピードを出し過ぎないように声をかけることもやろうと思った。

本時に関わって (14/15)

(1) 本時のねらい

くらしの安全を守るために仕事をしている警察官の「交通事故を減らすためには地域の協力が欠かせない」という言葉の意味を考えるを通して、既習内容などをヒントにしながら地域の一員としてまちの安全を守るために自分にできることを考えることができる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点
1. 問題を見出す。 T: これまで、まちの安全を守るために警察官や地域の方がどんな取組や努力をしてきたかを学習しましたね。どんなことをしていましたか？ C: 事故が起きたとき、いろんな人と協力をしていたよ。 C: 地域では、いろいろな取組をして、まちの安全を守ってくれる人がいたよ。見守り会とかやってくれているよ。 T: 警察官や地域の方が、たくさん考えて取り組んでくれているから自分たちは守ってもらっただけでいいってことかなあ。 C: だめだと思う。何か協力できることをした方がいいと思う。 T: なるほど。警察官と、地域の人からみんなへメッセージを預かってるよ。(メッセージを読む) このメッセージを聞いてどう思った？ C: 私たちも地域の一人だから、何かできることを考えるといいと思う。 C: 考えたことを消防の時みたいに家族に伝えたいな。 T: 自分たちが単元の最後にやりたいって言っていたことがこのメッセージに表れているね。 【課題】 まちの安全を守るために自分は何ができるだろうか。 2. できそうなことを考える。(個人追究) T: 警察はポスターを描いたりしているね。真似してみたら？ C: ポスターを描けば、みんなが見て気をつけようと思う人が増えると思うから、交通安全をよびかけるポスターを描くよ。 T: 危ない場所を警察官に教えてもらったね。自分にできることはないかな。 C: 交通事故は交差点で起きることが多かったから、わたる時にちゃんと車が来ないか毎回確認して渡るように呼びかけようと思うよ。 T: 自転車事故も大変なことになって教えてもらったね。 C: 小学生は自転車に乗っている時もあぶないと思うから、自転車に乗る時は、ヘルメットをしっかりかぶってスピードを出しすぎないように気を付けようと思うよ。 T: 警察官にインタビューしたことを思い出してみたら？ C: スピードの出し過ぎや、けいたい・わき見運転も交通事故の原因になるって警察官が言っていたよ。家族が車に乗る時に安全運転をするように声をかけようかな。 3. 本時のふりかえりをする。 ・はじめは何をするといいか考えられなかったけど、今までの資料を見て道を渡る時には、必ず横断歩道を渡るように家族にも伝えることを考えてみたけど、もっといい案がないかな。 ・今日考えたことのほかに、どんなことができるのかをもっと考えて、自主勉強でまとめようと思った。 ・私も家族に安全運転のアドバイスをすることのほかに、家の周りの安全マップをつくってみようと思った。 ・次は、自分の考えをなかに話したいな。	問いが生み出されるパターン 児童の願いを実現する方法を考える。 ・警察官や地域の方の活動への気持ちを示すことで、まちの安全を守るために、自分にできることを考えて協力したいという願いや意識から問題を見出す。 ・考え作りのヒントとして、他の地域で小学生が考えたことを紹介する資料や、警察が啓発している交通事故を防止するポイントや、防犯のポイント資料をロイロノートの資料箱に入れておく。 ・考えに理由がない児童には、「何でそう思ったの?」と声をかける。 ・既習内容と関わらせたり、資料を活用したりしながら考え作りをしている姿を認め、価値づける。 (新たな問い) 社会生活に活かしたいことを実践する気持ちをもつ。 評価規準【主体的に学習に取り組む態度】 まちの安全を守る警察官や地域の方の思いを知り、自分にできそうなことを考え、仲間に伝えることができる。(ノート・発言)

第5学年 社会科学学習指導案

1 単元名 「自動車をつくる工業」

2 単元の目標

我が国の自動車生産について、製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して地図帳など各種の資料で調べ、まとめることで自動車生産に関わる人々の工夫や努力をとらえ、その働きを考え、表現することを通して、自動車生産に関わる人々は消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして自動車生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

3 単元の構想

この単元の学習は「私たちの生活と工業生産」という大単元の中の4つの小単元の1つである。工業生産について、「工業地帯や製品について」「自動車生産業について」「運輸や貿易について」「高い技術力を生かした工業について」の4つの単元を構成している。工業の学習では小単元で2つ目である。自動車産業において消費者の願いやニーズに合わせた生産を可能にしている技術や工夫についてや、外国とのつながりについてなどを学習していく。前の単元までに人々のニーズに合わせた農業生産の学習を進めている。

この単元を通して、工業生産での外国とのつながりや自動車産業以外の日本の誇る技術について理解や考えを深めていく。

4 授業の見どころ

①授業導入の事象提示から、児童が問いを見出すための資料の精選と教師の発問の吟味

前単元では、工業のさかんな地域について学習し、工業について大きく捉え、新しいキーワードを学んだ。本時では工業の中でも自動車産業に焦点をあてていく。児童が積極的に問いを見出すことができるように、興味をひく導入を仕組んだ。消費者のニーズに合わせた自動車づくりをしている資料から、なぜ消費者に合わせた自動車づくりを進めているのか、どうやってニーズに合わせて間違いなく自動車づくりをすることができるのかなど、児童がスムーズに疑問をもつことができるように資料の精選を行った。

本学級の児童は多面的・多角的に物事をつかむこと、もしくはつかもうと努力できる児童が多い。一方で事実と異なっていると思ひ込むとそこから離れられない傾向の児童も多い。思い込んでしまう児童には、本当にそうなのかと教師が問い返し、検証する立場で問いを見出ししていくことができるように声をかけていく。

単元を貫く課題を生み出すための発問と思考の流れを捉える単元構想図 5年生「自動車をつくる工業」【全7時間】

自動車のカタログをみて、気付いたことを交流する。
C: 色の種類が多い。17色もあったら、どれにしようか迷ってしまうね。
C: 同じ車でも中の様子がちがっている。選べていいと思う。
C: ほしい人の気持ちに合わせて車をつくっているんだ。

T: 資料1～3から気付いたことや考えたことを交流しましょう。
C: 資料1から、かなり広い工場で作っていることがわかる。また年間の生産台数が約337万台(国内生産のみ)あることもわかった。
C: 資料2から、自動車づくりには1台に3万もの部品を使っていることがわかった。もっと少ないと思っていたから驚いた。
C: 資料3から工場の中にはラインとよばれるものがあり、複数の種類の自動車を同時に作っていることがわかった。また自動車の色も関係なく一つのラインで作っている。

・工場でたくさんの自動車をどうやって作っているのだろう。
・3万個ある部品も同じ工場の中で作っているのだろうか。
・工場の中で同じラインで作る自動車の色がバラバラだけど、まちがえずにつくることができるのだろうか。
・もしまちがえたときには、どうしているのだろうか。

【単元の課題】自動車をたくさんつくるために、自動車づくりの人々はどのような工夫をしているのだろうか。

【問いを生み出すパターン】 ③既存の概念の適用範囲の変更(拡張・限定)
④既存の概念と事象提示との認知的葛藤から原因や既存の概念の修正を図る。

	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時
課題	組み立て工場ではどのように組み立てているのだろう。	自動車の組み立てにはどんな工夫がされているのだろうか。	関連工場でどのように部品を作っているのだろうか。	完成した自動車はどのように運ばれるのだろうか。	これからの自動車開発はどのように変化していくのだろうか。	日本の自動車づくりのよさをまとめよう。
学習活動	○組み立て工場での工程について整理する。	○消費者の注文に合わせてたくさんの自動車を一度に生産するための工夫を調べる。	○地図資料や関連工場で作られている製品から、自動車は関連工場と組み立て工場の協力で生産されていることを理解する。	○自動車の輸送の方法や海外での現地生産や海外販売数の多さについて理解する。	○時代とともに変化する自動車と消費者のニーズに合わせた自動車開発について調べ、どんな自動車がつくられていくか考える。	○これまでの学習したことを振り返り、自動車づくりのよさをまとめる。
まとめ	・自動車づくりはプレスや溶接、塗装、組み立てといった工程で行われている。一つの工程で人やロボットが多くの作業をしている。	・組み立て工場では、指示ビラやカンバンを使った工夫がされていることがわかった。すばやく、正確に効率よく自動車がつくられている。	・自動車をつくるために、組み立て工場だけではなく、多くの関連工場が協力していることがわかった。	・完成した自動車はキャリアカーや船で国内や海外に運ばれていることがわかった。また現地生産をしていることもわかった。	・社会の変化や消費者の願いに合わせて自動車開発がされている。いつかすべての人が安心できる自動車がつくられるといいな。	・消費者の願いに合わせてよりよい自動車をつくるために工夫や努力をしていることがわかった。他の工業製品も同じだろうか。

本時に関わって（1／7）

（1）本時のねらい

日本の自動車工場の写真や自動車に必要な部品についての資料を通して、自動車がどのようにつくられているかの疑問をもち、学習課題を考え、これからの学習の見通しをもつことができる。【学びに向かう力、人間性等】

（2）本時の展開

時	学 習 活 動	指導上の留意点
本 時	【課題】これから学習する単元の学習課題をつくり、計画を立てよう。 ○自動車のカタログを見て、同じ自動車でも色や内装にちがいがあることを知る。 T: 自動車を買ひ替えようと考えているのですが、迷っていることがあります。このカタログを見てください。 C: いろいろな色があるね。これだけ色があるとどの色にしようか迷っちゃうね。 C: 自動車の中の様子もちがう。同じ車でもこんなに種類があるんだ。 C: 消費者がたくさん選ぶことができるのはいいことだと思う。 T: 自動車は受注生産といって、消費者の注文に合わせて自動車をつくっています。次の資料から単元の学習課題を考えていきたいので見てください。 ○資料1～3から気付いたことや考えたことを交流する。 C: 資料1 からかなり広い工場で生産されている。 C: 年間の生産台数が337万台もあるよ。 C: 資料2から自動車づくりには自動車1台に3万個もの部品を使っていることがわかる。こんなに部品の種類があるんだ。 C: 資料3から工場の中ではラインによって自動車が作られる。複数の自動車を同時につくっているよ。 C: 自動車の色も混ざっているよ。まちがえることはないのかな。 T: たしかに!今の発言のように疑問に思ったことや考えたいことはありますか。 ○自動車工業について疑問に思ったことや考えたいことを交流し、単元を貫く課題をつくる。 C: 色も部品も同じラインでつくっていて消費者の注文をまちがえることはないのかな。もしまちがえたらどうしているのだろう。 C: どうやってこんなにたくさんの自動車をつくっているのだろう。 C: すべて人の手でつくられているのかな。ロボットとかも使っているのだろうか。 C: 部品は3万個もあるけど、すべて同じ工場の中でつくっているのかな。それとも別の工場でつくっているのかな。 T: いろんな疑問が出てきたね。この単元を大きく見たときにどんな単元の学習課題ができるかな。 C: 自動車づくりには多くの自動車を生産したり、消費者の注文に合わせてたりするための工夫がされてそうです。 【単元の学習課題】 自動車をたくさんつくるために、自動車づくりの人々はどのような工夫をしているのだろうか。 ○これからの学習の見通しをもつ。 C: 消費者の注文で自動車がつくられていくのに、注文をまちがえてつくってしまったら消費者からの信頼がなくなるから、注文をまちがえないように工夫がされていると思う。 工場の中がどのようなになっているのか、もっと知りたい。工場の中の様子が分かる資料や、実際に働いている人のインタビューなどがあると、知りたいことが分かると思う。	・カタログを見せ、色や内装、自動車のグレードなど自動車を買う際には多くの選択肢があることに気付かせる。 ・資料を提示し、その場で仲間と交流させながら、気付いたことをメモさせ、つぶやかせる。 ・児童のつぶやきをもとに、教師が集約をしていく。 ・気付いたことから疑問につなげた児童の発言を拾い、考えたいことを交流させていく。 ・児童の発言を促し、交流を進める。 ・ある程度発言の交流をした後で、ロイロノートに調べたいことを個人で書かせ、提出させる。 ・提出された疑問を紹介しながら、「どうなっていると思う?」と予想を聞き、このあとの見通しをもちやすくする。 ・ロイロノートに書かれた疑問を集約し、単元を貫く課題をつくり、全員で共通認識をはかる。
		評価規準【主体的に学習に取り組む態度】 資料や仲間の意見から日本の自動車づくりについて着目し、学習の見通しをもつことができる。(発言・記述)

むらさきはなな1組 生活単元学習 学習指導案

1 単元名 「 みんなであそぼう！ はななパーク 」

2 単元のねらい

- ・「みんなで乗れるネコバスを作りたい。」「みんなで楽しく遊びたい。」「他の人たちにも作ったバスを見てほしい。」などの願いをもって、活動に参加することができる。
- ・みんなで一緒に楽しみながらバス作りに取り組み、達成感を得ることができる。
- ・バス作りやバス遊びを通して、仲間や担任と楽しく関わり合うことができる。

3 単元の構想

本単元は、子どもたちが興味をもっているアニメ映画「となりのトトロ」を題材に、「みんなで乗れるネコバスを作りたい。」という子どもたちの願いから、みんなでバス作りに取り組む。まずは自分たちがバスを作り、バス遊びを十分楽しむ時間を設定する。その後普段関わっている他の人たちにも自分たちが作ったバスを見せたいという新たな願いをもち、その願いの実現のために働きかけることができるようにする。仲間と一緒に活動したり、関わる対象を広げたりする中で、みんなと一緒に活動する楽しさや達成感を得られるようにしたい。

4 授業の見どころ

① 研究内容2に関わって

本時は繰り返し取り組んできたバス作りの仕上げとして、ネコの顔や飾りを取り付け、完成したバスをみんなで眺めたり実際に乗ったりする活動を行う。子どもたちが本時の活動内容に見通しをもち、お話の世界観に浸って活動を楽しめるようにしたい。

そのために、導入では現時点のネコバスをみんなで眺め、「あと何をすれば完成できるかな？」と問いかけ、バスのパーツを取り付ける必要があることに気づき、見通しをもって活動できるようにする。また、子どもたちがお話の世界をイメージしやすくなるような教室の装飾、バス停等の小道具、劇中歌のBGM等を準備する。

② 研究内容3に関わって

終末の振り返りでは「完成できてうれしい。」「みんなで乗れてうれしかった。」という喜びや「もっとたくさん乗りたい。」「むらさきはなな2組の子たちにも乗ってほしい。」「学校の先生にも見に来てほしい。」などの新たな願いを引き出せるようにしたい。そのために、活動中に子どもたちが呟いた新たな願いは、その都度共有化を図る。また、振り返りの視点を内容ごとに色分けしたカードにして視覚的に示しておき、振り返りの時にいつでも使えるようにしておく。

5 単元構想図 「 みんなであそぼう! はななパーク 」 全18時間

単元の流れ

※問いが生み出されるパターン

みんなでやってみよう! ことについて話し合おう。(1時間) ①

T:「今までみんなですごろくをしたり、児童館に行って遊んだりしたね。今度はみんなで、どんなことをしてみたい?」

※①成功体験や憧れ・期待から思い起こす。

C:「もっと大きいネコバスをみんなで作りたい。」

C:「みんなで一緒に乗れるくらいのバスが作りたい。」

計画を立てよう。(2時間) ②③

T:「みんなが乗れるネコバスを作るためには何が必要かな?」

※②願いの実現に向けて試行錯誤の中で思いを巡らす。

C:「大きいダンボールが必要だね。」

C:「手とか足も付けてあげないとね。」

C:「バスに色を塗りたいな。」

ネコバスを作りながらみんなで遊ぼう。(6時間) ④~⑨

T:「もっと楽しいバスにするためには、他に何が必要かな?」

※②願いの実現に向けて試行錯誤の中で思いを巡らす。

C:「バスに飾りも付けたい。」 C:「まだネコの顔が付いてないね。」

※③実現への見通しの中から、新たに見出す。

C:「今度は、むらさきはなな2組のみんなとも乗りたい。」

C:「他の先生にも見に来てほしい。」

※本時⑨

※③実現への見通しの中から、新たに見出す。

C:「今度は、むらさきはなな2組のみんなとも乗りたい。」

C:「他の先生にも見に来てほしい。」

むらさきはなな2組のなかまを招待しよう。(4時間) ⑩~⑬

T:「むらさきはなな2組の子たちに、ネコバスのことを、どのように紹介すると乗りにきてくれるかな?」

※②願いの実現に向けて試行錯誤の中で思いを巡らす。

C:「チラシを配って、その時にぜひ来てください!って伝えよう。」

T:「じゃあチラシに書くことと、誘う時のセリフを考えよう。」

学校の先生を招待しよう。(4時間) ⑭~⑰

T:「学校の先生は誰を招待する?どのように招待する?」

※②願いの実現に向けて試行錯誤の中で、思いを巡らす。

C:「僕は交流の先生を招待したい。」

C:「2組さんを誘った時みたいにチラシを渡して、ぜひ来てください!って伝える。」

単元の振り返りをしよう。(1時間) ⑱

T:「みんなであそぼう!はななパークをして楽しかったのはどんなこと?」

C:「みんなであんなに大きいネコバスが作れて楽しかった。」

C:「みんなでバスに乗れて楽しかった。」

C:「2組さんや先生たちとも一緒に乗れて楽しかったよ。誘ってくれてありがとう。と言ってもらえて、すごくうれしかった。」



- ・大きなトロロも作りたい。
- ・全校のみんなにも見せたいから、全校のみんなをむらさきはなな1組に招待したい。
- ・お家の人たちにも見せたい。

6 本時のねらいと展開（9／18）

・仲間や担任と一緒に楽しみながらバス作りに取り組むことができる。

・仲間と一緒にバス遊びを楽しむことができる。

○児童の姿 ※教師の支援と指導の意図

ね ら い	・仲間と一緒に楽しく活動 することができる。	・思い通りにいかなくても気 持ちを切り替えて仲間と活 動を楽しむことができる。	・仲間と一緒に活動するこ とができる。	・活動の流れが分かり、自分 から動くことができる。	・仲間と適切な距離を保ち、 一緒に楽しく活動に参加 することができる。	・仲間と一緒に楽しく活動す ることができる。	・活動内容が分かり、仲間と 一緒に楽しく活動すること ができる。
学 習 活 動	1 前時の様子を振り返り、課題を確認する。 ○バスの様子を眺め、前回までの成果を振り返ると共に、今日の活動の見通しをもつ。 ※「あと何をすれば完成できるかな?」と問いかけ、バスのパーツを貼る必要があることに気付けるようにする。(研究内容2)						
	課題 みんなで ネコバスを かんせいさせて、たのしく あそぼう。						
	2 みんなでネコバスのパーツを貼る。						
	○仲間に教えてもらいながら自分でパーツを貼っている。 ※「〇〇さんに教えてもらえてきたね。」と価値付ける。	○パーツが上手く貼れなくても気持ち切り替えて活動に取り組んでいる。 ※できている部分を認めながら、前向きに活動に取り組めるように励ます。	○仲間と同じ空間で活動している。 ※どんどん完成していくネコバスに注意が向くように声をかける。	○仲間に自分から声をかけながら一緒に活動している。 ※仲間に優しく声をかけている姿を価値付け、全体に広める。	○仲間に優しく関わっている。 ※その行動のよさを繰り返し即時評価して伝える。	○活動内容が分かり、仲間と一緒にパーツを貼っている。 ※「〇〇さんに手伝ってもらえてよかったね。」と仲間と関わるよさを伝える。	○どのパーツを貼ればよいか分かり、仲間と一緒に活動している。 ※何をすればよいか迷っている様子が見られたら、周りの仲間に聞くように促す。
学 習 活 動	3 完成したネコバスを眺め、みんなで一緒に乗ったり、記念撮影をしたりする。 ※劇中歌をBGMで流し、お話の世界に浸りながら活動を楽しめるようにする。(研究内容2) ※遊びの途中で「2組さんにも乗ってほしい!」等、新たな願いが出てくることがあれば共有化を図る。(研究内容3)						
	○仲間と一緒に楽しそうにバスに乗っている。 ※みんなで乗ると楽しいことを一緒に共感しあう。	○仲間に先頭を譲っている。 ※譲れた姿を即時評価し、全体に広げる。	○仲間と一緒に楽しそうにバスに乗っている。 ※「Cさんもみんなと一緒に楽しそう!」と全体に良い姿を広げる。	○順番に先頭を代わろうとする。 ※「どうしたらみんなが先頭になれるかな?」と問う。	○仲間と適切な距離を保って楽しくバスに乗っている。 ※仲間との距離が近過ぎる場合は適切な距離を視覚的に示す。	○仲間と一緒に楽しそうにバスに乗っている。 ※みんなで乗ると楽しい気持ちになることを共に喜び合う。	○先頭の順番を守って仲間と楽しくバスに乗っている。 ※みんなが先頭になれるとうれしい気持ちになることを共に喜び合う。
	4 振り返りをする。 ○自分の思いを話す。「楽しかった。」「うれしかった。」「もっと乗りたい。」 ※「何が楽しかった?」「何がうれしかった?」と問いかけ、具体的に話すことができた場合は、その内容に応じて振り返りの視点カードを板書に位置づける。(研究内容3) ※活動時に新たな願いが出されたらその発言を基に願いを広げる。出されていない場合は、「一緒に乗りたい人はいる?」等と問いかけ、新たな願いが引き出せるようにする。						
	評 価	・仲間と一緒にバス作りに取り組んだり、楽しくバスに乗ったりしている。 (発言、行動)	・最後まで仲間と一緒に活動を楽しんでいる。 (行動、発言)	・仲間と同じ空間で活動を楽しんでいる。 (行動)	・自分から働きかけて活動を楽しもうとしている。 (発言、行動)	・仲間との適切な距離感に気付きながら活動を楽しもうとしている。 (発言、行動)	・仲間と一緒にバス作りに取り組んだり、楽しくバスに乗ったりしている。 (発言、行動)

むらさきはなな2組 自立活動 学習指導案

1 単元名 「 ピンゴ大会をしよう 」

2 単元のねらい

- ・「全校生徒を招いてピンゴ大会を開きたい。」「みんなで楽しく遊びたい。」「卒業生を招待したい。」などの願いをもって、活動に参加することができる。
- ・話し合いをする中で、自分の思いを短い言葉や気持ちカードを使って相手に伝えることができる。
- ・「人前で話す」「自分から仲間に働きかける」「見通しをもちながら活動する」など、自分の苦手なことがあっても仲間の力で最後までやりきることができる。

3 単元の構想

本単元は、「今年は全校児童が参加できるピンゴ大会を開きたい。」という子どもたちの願いを実現していく単元である。一昨年度は「お絵描き大会」、昨年度は「秋まつり」を自分たちで計画し、全校に参加を呼び掛けた。準備は大変だったが、それ以上に「自分たちの力でやりきった。」「楽しかった。」という思いが強く、それが自信となって、「また来年もやりたい」という思いにつながっている。

ピンゴ大会を開くために、むらさきはなな1組へ協力をお願いに行ったり、全校にボランティアを募集したり、当日の司会の進め方や受付の対応の仕方などを考えたりしながら、丁寧な言葉遣いを身に付けられるようにする。

また、今年は「卒業生も呼びたい。」「家族にも来てほしい。」という新たな願いを実現するため、自分たちから全校児童に発信していく力だけでなく、顔の見えない相手に対して正しく、より丁寧に伝えることができるようにしていきたい。

4 授業の見どころ

① 研究内容2に関わって

本時は、「みんなと遊べて楽しかった。」「ピンゴ大会をやってよかった。」「またやりたい。」という思いから、「次は卒業生を呼びたい。」という願いを実現させるために必要なスキルを学ぶ学習を行う。

前時では、「次は中学生を招待したい。」という新たな願いから、「そのためには中学校にアポイントをとる必要があるかな?」「保護者の許可も必要じゃないか?」といった問いを確認している。

本時は「より丁寧な言葉遣いや相手を意識した電話のかけ方」に取り組むが、児童が「この話し方なら失礼じゃない。中学校にも電話できそう。」という思いを引き出すことができるようにしたい。そのために、前時までに児童が身に付けてきた話し方等を生かして、より丁寧な言葉遣いや相手を意識した話し方につなげたい。

また、本当に実践できるかどうか、電話のかけ方の練習後に、実際に保護者や中学校に電話をかけてみる。事前に保護者や中学校へお願いをしておき、児童が「電話をかけてみたい」と思った時にすぐに行えるよう、携帯電話も用意しておく。

② 研究内容3に関わって

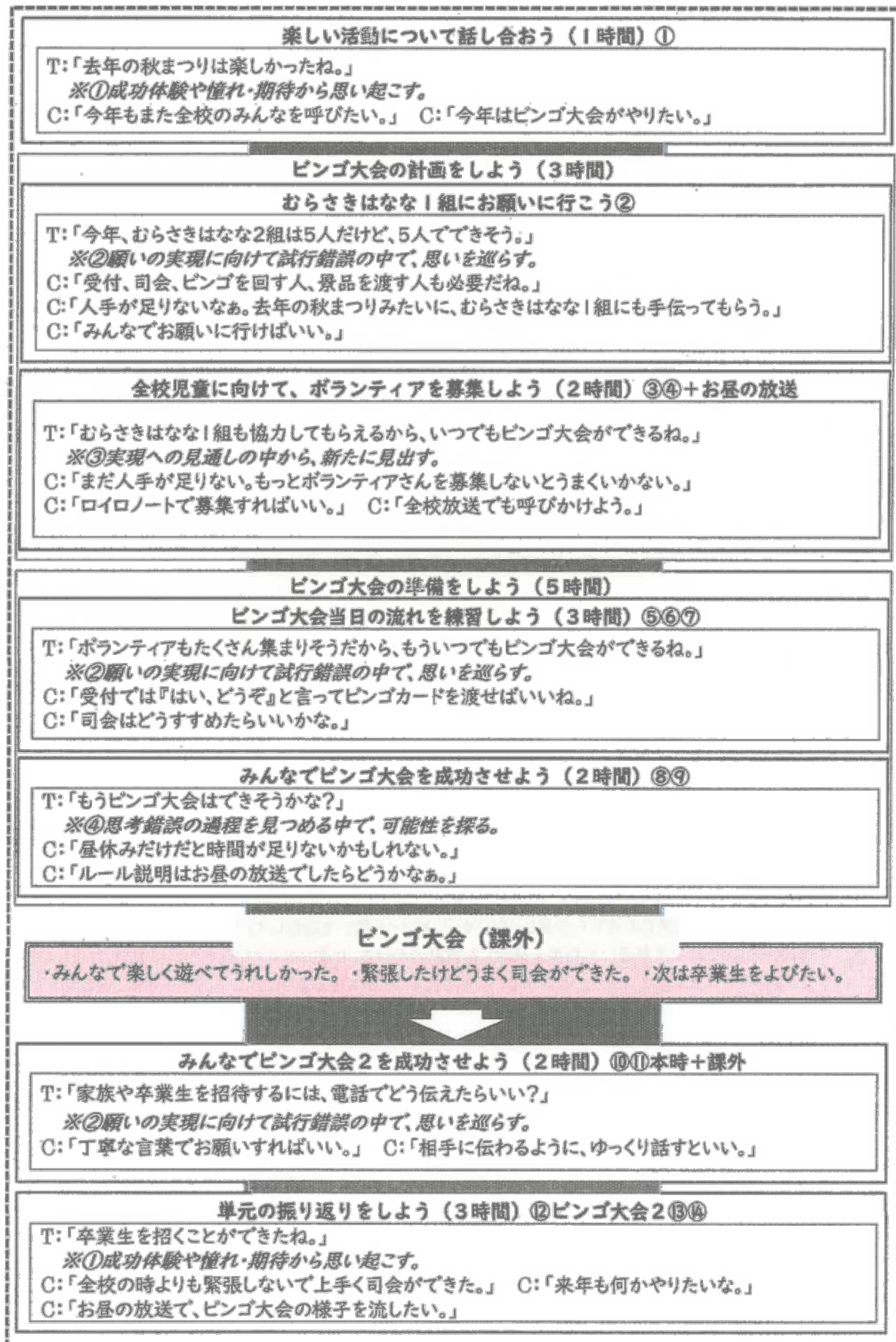
終末の振り返りの場面では「保護者に自分で伝えることができた。」「丁寧な言葉遣いができるようになった。」「初めて中学校に電話したけど、伝えることができた。」という実感や喜びを自分の言葉で語れるようにしたい。そのために、振り返りの視点を内容ごとに色分けしたカードにして視覚的に示しておき、いつでも使えるようにしておく。

また、児童が自分の言葉で伝えられたことや丁寧な言葉遣いができたこと、新たに気づいたこと等を即時評価し、「どうしてうまく伝わったのだろうか?」と問いかけたりすることで、相手に合わせて話すことの価値に気付けるようにしたい。

5 単元構想図 「 ビンゴ大会をしよう 」 全14時間

単元の流れ

※問いが生み出されるパターン



ねらい	・保護者や中学校に電話をして、相手を意識した丁寧な言葉遣いで伝えることができる。 6-(5)状況に応じたコミュニケーション	・仲間が電話する様子を見て、丁寧な言葉で話しているのかに気づき、仲間の姿のよさを話すことができる。 6-(2)言語の受容と表出	・どんな言葉で話したら上手く伝わるのかを考え、原稿を見ながら電話で伝えることができる。 6-(5)状況に応じたコミュニケーション	・どんな言葉で話したらいいのかを考え、原稿を見ながら電話で伝えることができる。 6-(5)状況に応じたコミュニケーション	・会話の原稿に目を向け、電話のかけ方の練習に取り組むことができる。 ・仲間の様子を見て、電話のかけ方について学ぶことができる。 6-(1)コミュニケーションの基礎的能力
学習活動	1 課題を確認する T:ビンゴ大会に誰を呼ぶんだっけ? C:お兄ちゃんたち T:じゃあ、これから電話でお願いしてみよう。できそう? C:お母さんにならできそう。 ※兄以外の卒業生についても考えられるようにする。	C:卒業生 ※写真や動画を見せて、招待したい気持ちをもたせられるようにする。 C:無理	C:中学生 ※写真を見せるだけでなく、メッセージ動画も見せて、卒業生が楽しみにしていることに気づかせる。 C:「ビンゴ大会を開くので、来てほしいです。…」原稿があれば話せるかもしれない。	C:お姉ちゃんと弟 ※おうちの方を招待したいという願いを大切にしながら、写真や動画を見せて、卒業生も楽しみにしていることに気づかせる。 C:家で「お姉ちゃん、来て。」と言う。 ※何と言って招待するのか問う。	(C:中学生) ※写真を見せて、誰を招待するのかを明確にする。 C:(できないと首を振る。) ※電話できそうか個別に声をかけ、意思表示ができたことを認める。
	課題 家族や中学生をビンゴ大会に招待するために、おうちの方や中学校の先生に電話をしよう。				
	2 伝え方を考える (研究内容2) T:じゃあ先生が一度やってみるね。(パターン1の実演) C:知り合いならいいけど失礼。 C:「むらさきはなな学級」も伝えた方がいい。	C:だめ。 ※どこを直すといいのかを問い返し、指をさすように促す。	C:「いる?」というところがダメ。 「みえますか?」の方がいい。 ※他にも直した方がよいところを問う。	C:言葉が変、だめ。 ※どこを直すといいのかを問い返す。	C:(だめとジェスチャーや気持ちカードで伝えられる。)
	【言葉遣いの悪い会話例】 (パターン1) 中学校の先生:「はい。境川中学校です。」 C:「柳津小学校の〇〇です。〇〇先生は?」 中学校の先生:「はい。〇〇です。」 C:「ビンゴ大会に〇〇くんに来てほしいけど大丈夫?」 中学校の先生:「大丈夫ですよ。」 C:「ありがとう。かわいいことはまた連絡するね。」 【丁寧な言葉遣いの会話例】 (パターン2) 中学校の先生:「はい。境川中学校です。」 C:「こんにちは。柳津小学校むらさきはなな2組の〇〇です。〇〇先生はいらっしゃいますか。」 中学校の先生:「はい。〇〇です。」 C:「ビンゴ大会に〇〇くんを招待したいのですが、大丈夫ですか?」 中学校の先生:「大丈夫ですよ。」 C:「ありがとうございます。かわいいことはまた連絡します。」 キーワード:【丁寧な言葉】				
	T:原稿ができたから、もう一回やってみるね。(パターン2の実演) C:もっとゆっくり言わないとだめ。 ※ゆっくり話すとは、ゆっくり読むことではなく、相手に合わせて待つことだと気づかせていく。 3 丁寧な言葉遣いや相手を意識した話し方で、電話をかけてみる T:じゃあ、中学校に電話してみよう。 C:いきなり中学校は無理、先ず親にかけて練習したほうがいい。 ※誰に電話がかけられそうか問い返す。 4 振り返りをする (研究内容3) C:ドキドキしたけど、ちゃんと伝えることができた。早口にならないように話した。	C:まだだめ。早すぎる。 ※教師の電話する様子を見て、どこを直すといのかに気づかせていく。 C:原稿があってもやっぱり難しいから代わりに伝えてほしい。 ※仲間に助けを求めたことも大切な意思表示であることを認めていく。 C:電話はかけられなかったけど、練習はできた。〇〇くんが上手に電話していた。 ※キーワードと繋げて話すように促す。	C:相手が困っている。伝わっていない。 ※電話の相手がどんな反応をしていたのかを問うことで、内容が伝わっていないことにも気付かせる。 C:無理、はずかしい。 ※ロイロノートを見ながら話してもよいことを認める。柳津小の職員室へ電話して練習できることを伝える。 C:丁寧な言葉で話せたから、ちゃんと伝わったと思う。 ※キーワードで振り返りしやすいようにしておく。	C:こんなふうによりゆっくり話さないでだめだよ。 ※どこが悪かったのかに気付いて、よい例のまねができるように促す。 C:家族には話せるけど、中学校の先生には話せないなあ。 ※ロイロノートを見ながら、まずは家族に電話することをすすめる。 C:もっとゆっくり話した方がよかった。 ※キーワードカードを見せて、どんなことに意識して話したのかを振り返られるようにする。	C:(伝わっていないと首を振ったり、仲間の意見にうなづいたりする。) ※教師の話す様子を見て、伝わったのかどうかを問う。 C:(代わりにかけてほしいと目で訴えたり、会話する仲間の姿を側で見たりする。) ※電話の会話に耳を傾けたり、原稿に目を通したりしている姿も認める。 C:自分ではできなかったけど、〇〇君に頼んだら代わりに電話してくれた。 ※仲間に助けを求められたことも大切な意思表示であることを認めていく。
評価	・保護者や中学校の先生に電話をかけ、丁寧な言葉遣いで思いを伝えようとしている。	・丁寧な言葉で話す仲間の様子を見て、仲間の姿の良さを見つけようとしている。	・電話ではどう伝えたらいいのかを考え、原稿を見ながら電話で伝えようとしている。	・どんな言葉で話したらいいのかを考え、原稿を見ながら電話で伝えようとしている。	・原稿に目を通して読んだり、仲間の姿を見て電話のかけ方を体験しようとしている。